

タイ貿易研修センター事業
エバリュエーション調査団報告書

昭和62(1987)年6月

国際協力事業団

鮎開技

J R

87-153

タイ貿易研修センター事業
エバリュエーション調査団報告書

JICA LIBRARY



1040777[3]

昭和62(1987)年6月

国際協力事業団

國際協力事業団

受入 月日	'87.12.18	122
		29.8
登録No.	17085	MIT

は し が き

タイ王国政府は、昭和56(1981)年10月「タイ貿易研修センター事業」に関する技術協力を要請してきた。わが国はこの要請に応え、昭和58(1983)年9月、タイ側関係当局と本件実施に係る討議議事録(R/D)を取り交わし、これに基づき同国における貿易研修・展示・規格品質管理技術の向上を目的とした技術協力を行なってきた。

今般、当事業団はR/Dによる協力期間が昭和62(1987)年9月4日に終了することに伴い、これまでの協力実績について評価をし、プロジェクト終了に関する協議を行うとともに、協力の継続が必要とされる場合には、その協力方法等につきタイ側関係当局と協議を行うことを目的としてエバリュエーション調査団を派遣した。

本報告書は、上記調査団が行った調査及び協議の内容と結果等を取りまとめたものである。

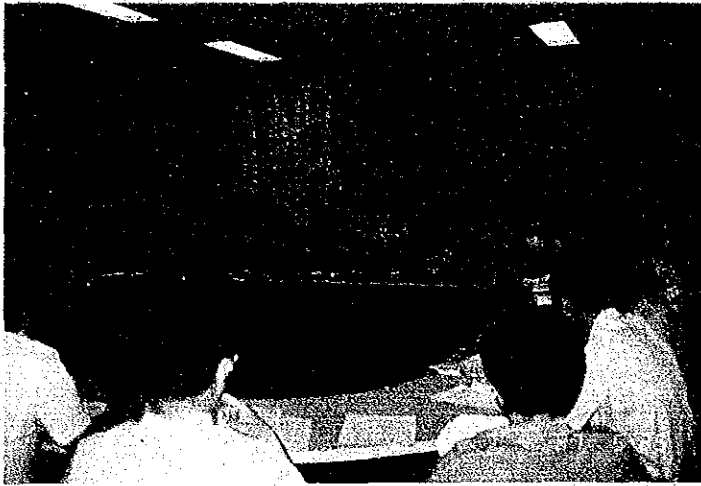
ここに本調査団派遣に際し、ご協力を頂いた在タイ日本大使館をはじめとする日・タイ両国の関係各位に対して心より謝意を表するとともに、今後とも本件技術協力の成功のために一層のご協力をお願いする次第である。

1987年6月

国際協力事業団

鉦工業開発協力部長

角 野 祥 三



タイ側関係者との協議

エバ・レポート
ミニッツ署名



エバ・レポート
ミニッツ交換

目 次

I	エバリュエーションチーム派遣	1
1.	派遣の目的	1
2.	チームの業務内容	1
3.	調査団の構成	1
4.	調査日程	2
5.	主な面談者	3
II	タイ貿易研修センタープロジェクトの概要	4
1.	プロジェクトの目的	4
2.	プロジェクトの背景	4
3.	プロジェクトの経緯	4
4.	協力相手機関及び協力期間	5
III	プロジェクトの協力実績	6
1.	長期専門家派遣	6
2.	短期専門家派遣	6
3.	研修員受入	8
4.	無償資金協力	9
5.	供与機材	9
6.	携行機材	9
7.	センタースタッフ配置状況及び商務省内に於ける 本プロジェクト関係機関（TTC・OCS）	9
8.	センター運営予算	12
IV	プロジェクトの全体評価	13
1.	エバリュエーション	13
2.	今後の課題	13
3.	フォロー・アップ	14
V	プロジェクトの分野別評価	16
1.	貿易研修・展示	16
2.	規格・品質管理（工業産品（繊維））	18

3. 規格・品質管理（農産品）	24
-----------------------	----

附属資料

「主要供与機材の利用管理状況調査」

「エバリュエーション・レポート及びミニッツ」

「DTECよりの協力延長要請書」

1 エバリュエーションチーム派遣

1. 派遣の目的

タイ王国の貿易振興に関係する人材の育成を図るために設立された「貿易研修センター (Trade Training Center; TTC)」に係る本プロジェクトは、昭和58年9月5日から4年間の予定で協力を開始し、今年9月には R/D 期限が到来する。本チームは、これまでの協力実績を評価するとともに、タイ側とプロジェクト終結に係る必要な協議を行うことを目的とする。又、評価の結果、尚フォローアップ等が必要と認められる場合は、その内容・期間等につき具体的な協議を行う。

2. チームの業務内容

- (1) これまでの協力実績を先方と協議のうえ、ジョイント・エバリュエーション・レポートとしてとりまとめる。
- (2) 協力継続が必要と判断されれば、その方法、期間、協力分野、内容等をミニッツにとりまとめる。

3. 調査団の構成

分 担	氏 名	所 属
団 長 総 括	飯 村 圭 司	国際協力事業団 鉦工業開発技術課長
団 員 技術協力計画 (貿易研修・展示)	飛 田 聰	通商産業省 通商政局 技術協力課
団 員 技術協力計画 (規格・品質管理(工))	所 村 利 男	通商産業省 生活産業局 総務課
団 員 技術協力計画 (規格・品質管理(農))	丸 山 憲 夫	農林水産省 食糧庁検査課
団 員 業務調整	菅 野 光 洋	国際協力事業団 鉦工業開発技術課

4. 調査日程

日順	月日	曜日	業 務 内 容	宿 泊 地
1	5/20	水	往 路 TG641	バンコック
2	21	木	TTC (貿易研修センター)表敬 DEP (商務省輸出振興局)表敬 OCS (商務省商品規格事務所)表敬	"
3	22	金	専門家との打合せ 「タ」側との協議	"
4	23	土	国内及び専門家との打合せ	"
5	24	日	資 料 整 理	"
6	25	月	JICA事務所・大使館表敬 DTEC (総理府経済技術協力局)表敬 「タ」側との協議	"
7	26	火	「タ」側との協議	"
8	27	水	「タ」側との協議 エバ・レポート・ドラフティング	"
9	28	木	エバ・レポート, M/M 署名・交換 JICA事務所・大使館報告	"
10	29	金	帰 路 TG740	"

5. 主な面談者

(1) タイ側関係者

- DEP — Director General
Mr. Chare Chuharakul
- DEP — Deputy Director General
Mr. Chachaval Sukitjavanith
- TTC — Director
Ms. Kanchana Prasong
- TTC — Chief, Training Section 1
Mr. Jayathat Suratanavongkur
- TTC — Chief, Training Section 2
Mr. Sirichai Sroithong
- TTC — Chief, Training Administration Section
Ms. Sriwattana Nunbhakdi
- OCS — Director
Mr. Pathom Panijayanusondhi
- DTEC — Head, Japan Sub-Division
Mr. Krisda Pianpongsant

(2) 日本側関係者

1. 日本大使館

生田 章 — 一等書記官

永山 勝行 #

2. JICAタイ事務所

後藤 教基 所長

桜田 幸久 次長

四釜 嘉総 所員

3. JICA TTC専門家

青 沼 浄

加賀 靖二

梅野 吉告

原田 光久

大竹 正治

Ⅱ タイ貿易研修センタープロジェクトの概要

1. プロジェクトの目的

無償資金協力により設立された「貿易研修センター」に於いて、貿易実務に関する計画的な研修による人材の育成、主要輸出産品の規格・品質管理技術の指導、さらには、タイ商品の展示技術の向上による新市場の開拓、輸出拡大を目的とする。

2. プロジェクトの背景

タイ王国では農工業の着実な生産の向上及び農工業製品輸出の拡大と多様化により1970年代は、平均経済成長率7%と顕著な成長を達成してきた。しかしながら1980年代には、石油価格の上昇・国際金融の危機等の外的環境の悪化に伴ない貿易収支、経常収支が赤字となり、1981年10月より始まった第5次国家経済社会開発計画の中で貿易収支の改善を重点とした輸出振興が最優先の課題となった。しかし、貿易に携る人材の不足と主要輸出産品の品質水準も国際水準に達していないことから、①国際貿易実務に精通した人材の養成、②輸出産品の規格・品質を検査する人材の養成、③輸出産品の展示・広報を行なう「貿易研修センター」の設立を計画し、無償資金協力及び技術協力の要請をしてきたものである。

3. プロジェクトの経緯

昭和56年度日・タイ技術協力年次協議で、タイ側より貿易研修センター設立の協力要請がなされた。

以後、下記の経緯をたどっている。

(1) プロジェクト方式技術協力

- | | |
|-------------|-------------|
| ① 事前調査団 | 昭和57年9月～10月 |
| ② 実施協議調査団 | 昭和58年8月～9月 |
| — R/D署名 | 昭和58年9月5日 |
| ③ 計画打ち合せ調査団 | 昭和59年8月 |
| ④ 巡回指導調査団 | 昭和61年10月 |

(2) 無償資金協力

- | | |
|-------------|---------|
| ① 事前調査団 | 昭和57年1月 |
| ② 基本設計調査団 | 昭和57年2月 |
| — 交換公文(E/N) | 昭和57年6月 |

- | | |
|----------|----------|
| (3) 建屋完成 | 昭和58年12月 |
|----------|----------|

4. 協力相手機関及び協力期間

(1) 協力相手機関 : タイ商務省 輸出振興局

(2) 協力期間 : R/D署名から4年間

昭和58年9月5日から昭和62年9月4日まで

Ⅲプロジェクトの協力実績

1. 長期専門家派遣 (No は下記リストと合致)

	1984	'85	'86	'87
チームリーダー	← ①		△ →	→
調査員	← ②		△ →	→
貿易研修 (マーケティング)	← ③		→	
貿易研修 (国際金融)		← ④	→	
規格品質管理 (農産品)	← ⑤		△ →	→
”		← ⑥	→	
”			← ⑦	→

2. 短期専門家派遣 (No は下記リストと合致)

貿易研修 (日本語)		← ⑧ →		
規格品質管理 (工業産品)	← ⑨ ⑩	← ⑪ ⑫	← ⑬ ⑭	
規格品質管理 (農産品)	← ⑤ ⑥	← ⑬	← ⑬	← ⑮
展 示	← ⑮	← ⑮		

№	氏名	分野	所属先	派遣期間
1	※青沼 浄	チームリーダー	貿易研修センター	84. 4.27 ~ 87. 9. 5
2	※大竹 正治	調整員	国際協力サービスセンター	84. 1.25 ~ 87. 9. 5
3	小泉 允雄	貿易研修 (マーケティング)	日本貿易振興会	84. 4.27 ~ 86. 4.26
4	與口 勝海	貿易研修 (国際金融)	㈱三井銀行	84.12.15 ~ 86.12.14
5	石井 和行	規格・品質管理 (農産品)	食糧庁	84. 1.25 ~ 84. 2. 8 84. 4.27 ~ 86. 4.26
6	※加賀 靖二	"	" (84.10退職)	84. 1.25 ~ 84. 2. 8 84.10.22 ~ 87. 9. 5
7	※梅野 吉告	"	"	86. 4.14 ~ 87. 9. 5
8	中島 清	貿易研修 (商業日本語)	海外技術者研修協会	85. 6.18 ~ 86. 1.16
9	鷺坂 和美	規格・品質管理 (工業産品)	通商産業検査所	84. 4.27 ~ 84. 7.26
10	三木 常秀	"	"	84. 4.27 ~ 84. 7.26 86. 8. 1 ~ 86.11.15
11	塚越 郁生	"	"	85. 4.21 ~ 85. 7.19 86. 8. 1 ~ 86.11.15
12	加藤 稔	"	"	85. 4.21 ~ 85. 7.19
13	松原伊左夫	規格・品質管理 (農産品)	東京肥飼料検査所	85. 1. 5 ~ 85. 3.16 86. 1.31 ~ 86. 4.10
14	東 博暉	展示	日本貿易振興会	84. 8.18 ~ 84.11.16
15	小山 巖	"	"	85. 8.12 ~ 85.11. 9
16	※原田 光久	規格・品質管理 (農産品)	東京肥飼料検査所	87. 4.28 ~ 87. 7.27

・青沼リーダー及び大竹調査員はそれぞれ86/4・86/1にプロジェクト終了時まで
任期延長

・加賀専門家は86/10にプロジェクト終了時まで任期延長

・62年5月1日現在の実績(述べ人数)

長期専門家派遣実績 10名(任期延長を含む)

短期 " 14名

※印は調査団来タイ時在籍者

3. 研修員受入（Noは下記リストと合致）

	1984	'85	'86	'87
貿易研修	① ←→	⑤ ←→ ⑥ ←→ ⑦ ←→		←→
規格品質管理 （工業産品）	② ←→		⑩ ←→	⑭ ←→
規格品質管理 （農産品）	④ ←→		⑪ ←→	⑫ ←→ ⑬ ←→
展 示	③ ←→		⑨ ←→	
商業日本語			⑧ ←→	
マネジメント				⑮ ←→
機材保守				⑯ ←→

・昭和61年度までの受入実績 延べ16名

・昭和62年度予定

ラボ・マネジメント 2名

AV制作 1名

合 計 3名

No	氏 名	分 野	期 間
1	Mr.Phatai Sooksommai	貿易研修	84. 4. 1 ~ 84. 5. 31
2	Ms.Suwimol Tikinanond	規格・品質管理 （工業産品）	84. 6. 14 ~ 84. 8. 21
3	Mr.Sawek Sakdarak	展 示	84. 7. 26 ~ 84. 9. 5
4	Mr.Trairat Hongsuwong	規格・品質管理 （農産品）	84. 10. 8 ~ 84. 12. 14
5	Mr.Chavalit Rjjanaprapnyon	貿易研修	85. 2. 14 ~ 85. 5. 13
6	Mr.Surasakdi Sukhopala	"	"
7	Mr.Vorapote Wongprasertphol	"	"
8	Ms.Amornrat Tarnrevadee	商業日本語	85. 10. 24 ~ 86. 4. 29
9	Ms.Vantance Kuachati	展 示	85. 1. 12 ~ 85. 12. 17
10	Mr.Pichet Intarapanich	規格・品質管理 （工業産品）	"
11	Mr.Chinaratana Sawatipanee	規格・品質管理 （農産品）	85. 2. 4 ~ 86. 2. 14
12	Mr.Suchart Arunakul	"	86. 1. 20 ~ 87. 2. 28
13	Mr.Suvit Rujirayanyong	"	"
14	Mr.Amarin Kongpun	規格・品質管理 （工業産品）	87. 1. 19 ~ 87. 3. 31
15	Ms.Kanchana Prasong	マネジメント	87. 3. 22 ~ 87. 3. 31
16	Mr.Vichanart Phonpalabarn	機材保守	87. 3. 30 ~ 87. 5. 31

4. 無償資金協力

施設 …… 敷地 8,800 m²
 延床面積 5,021 m²
 機材 …… L.L. 事務機, 試験機
 金額 …… 約15億円

5. 供与機材

(単位 百万円)

年 度	機 材 名	金 額
84	マイクロコンピューター	2.2
85	トランス・ベアレンシー複写機 レタリングシステム カメラ等	8.8
86	A V機器 Q. C 機器等	13.9
87	スペアパーツ類	10 (予算)

6. 携行機材

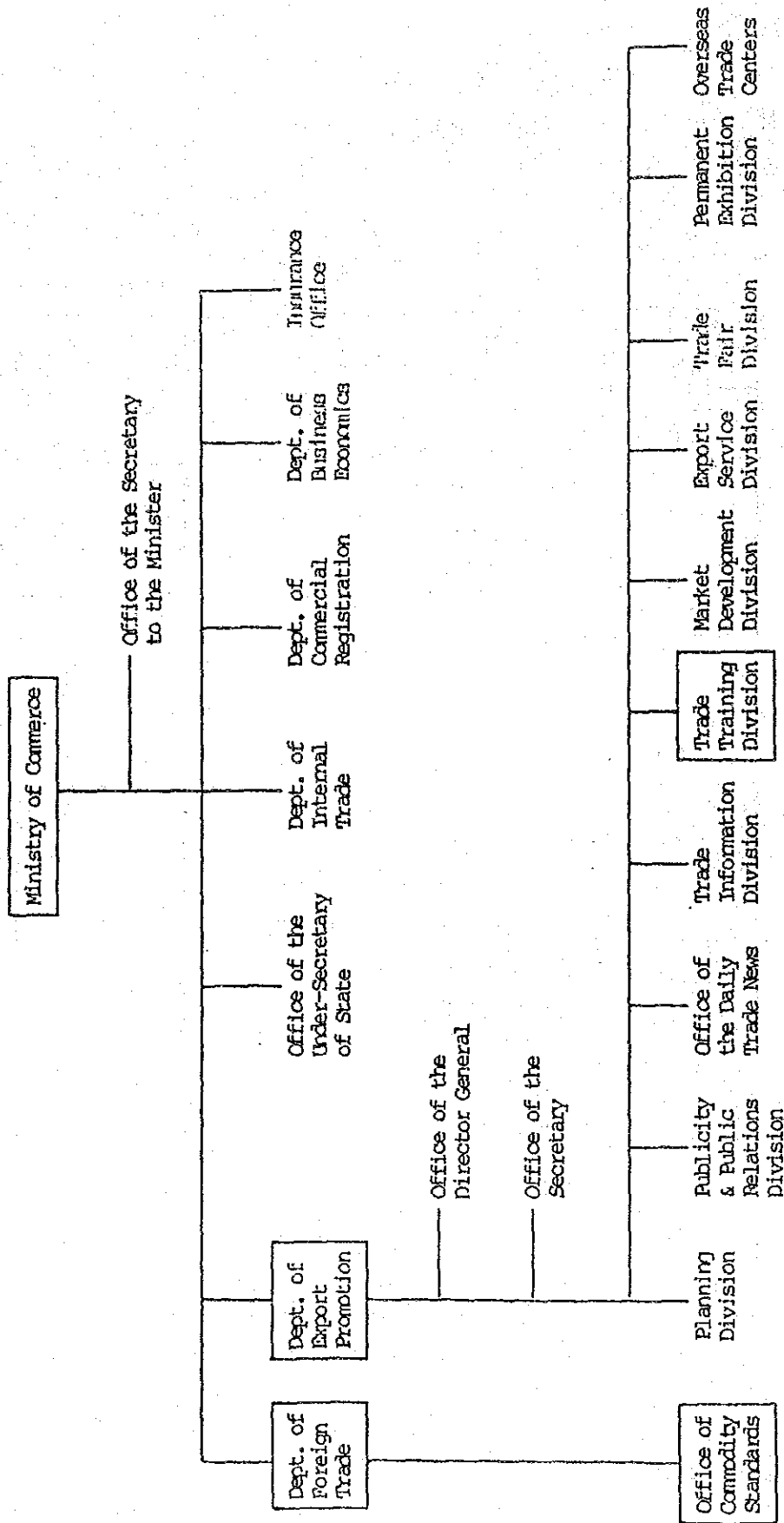
(主な機材)

(単位 百万円)

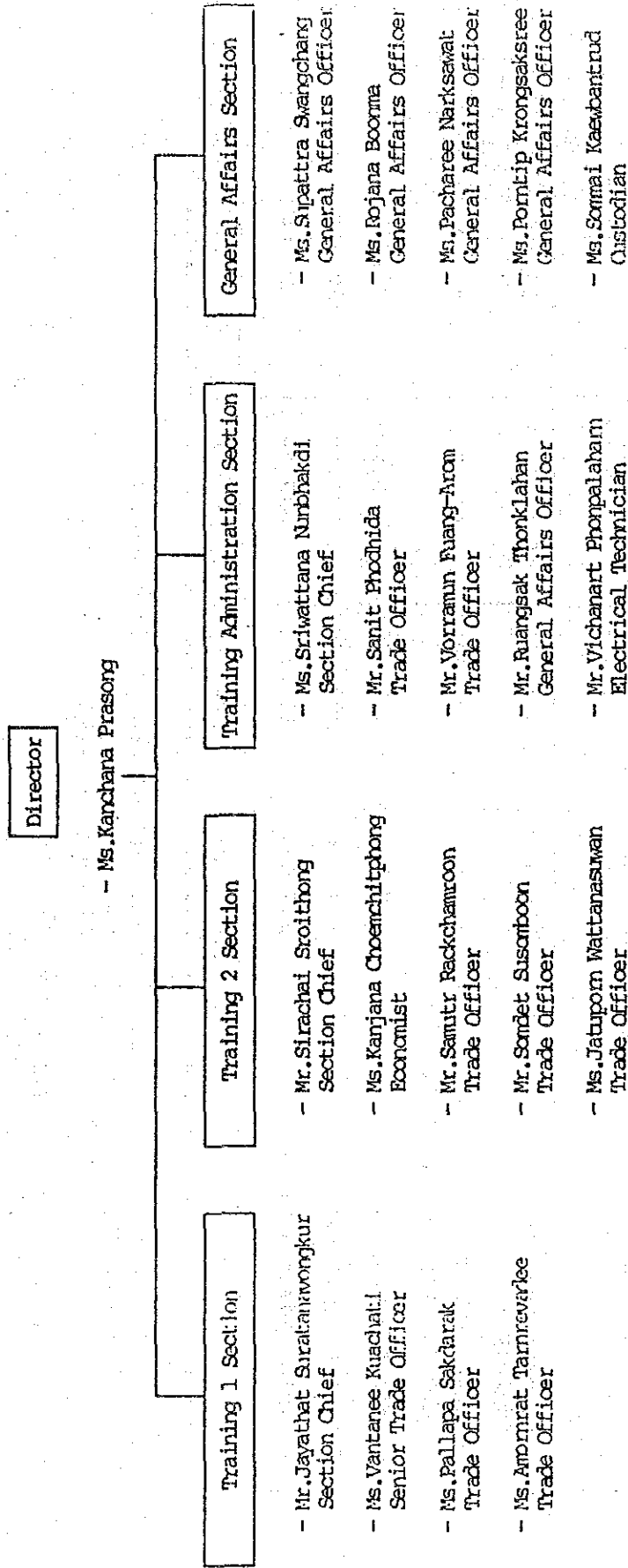
年 度	機 材 名	金 額
84	専 門 書 繊維理化学分析用試薬 シリンダー・フラスコ等検査機器 穀粒水分測定器 粗繊維定量装置	5.3
85	専 門 書 真空ポンプ 鑑定用照明器 穀粒粒度選別器	4.6
86	パーラー・パーレスト 粉 碎 機 縮分器, 水分計	5.8

7. センタースタッフ配置状況及び商務省内に於る本プロジェクト関係機関 (TTC・OCS) は
 以下(次項)のとおり。

ORGANIZATION CHART OF MINISTRY OF COMMERCE



ORGANIZATION CHART OF TRADE TRAINING DIVISION



8. センター運営予算

1984年10月～1987年9月までのセンター運営予算は以下のとおり。

THAI BUDGET OF TRADE TRAINING CENTER

Item	Thai Fiscal Year				(in Baht)
	1984	1985	1986	1987	
Personnel Expenses (Salary, etc.)	2,039,300	2,481,000	2,609,600	3,195,500	
Utility Charges (Electricity, Water, etc.)	900,000	900,000	900,000	900,000	
Repair & Maintenance	110,000	120,000	155,000	122,000	
Training Material	203,700	230,000	375,000	390,000	
Training Administration	289,000	289,000	699,600	699,600	
Total	3,542,000	4,020,000	4,739,200	5,307,100	

NOTE 1. Thai Fiscal Year is from October 1st of the previous year to September 30th of the said year.

(1984 TFY: October 1, 1983--September 30, 1984)

2. Rate: 1984 -- 1 Baht=10 Yen
 1985 -- 1 Baht= 9 Yen
 1986 -- 1 Baht=8--6 Yen
 1987 -- 1 Baht=6 Yen

IV プロジェクトの全体評価

1. エバリュエーション

本エバリュエーション調査団は、昭和61年10月に派遣した巡回指導調査団が専門家及び「タ」側と協議の上実施したプレ・エバリュエーションの結果に基づき取りまとめたエバレポート案に沿って「イ」側と必要な協議を行ない、エバ・レポート及びミニッツに署名・交換が行なわれた。

この署名・交換されたエバ・レポート及びミニッツは日本側から提示した原案とほぼ同じ内容のものであるが、タイ側からは、現下の日タイ貿易の現況を踏まえ、日本市場へ更に進出可能な商品に対する実効性のある協力を期待することが表明された。日本側としては日本のプロ技協の仕組みを説明し、本センターに対する協力は現行 R/D の範囲内で行なわれるべきこと、また、タイ貿易全体の拡大に対する協力は可能であるが、日本市場進出を狙った協力は困難であることを説明した。また、タイ側は本協力は、タイ貿易の促進に役立ったとの認識を持ちながらも、残りフォロー・アップ期間においては短期専門家を中心とする実効性のある効果的な協力要請が出された。

具体的には R/D 終了後の協力については、貿易研修分野について1年間のフォロー・アップ協力を行なうこと。その内容については、日本側が提案した Garment 及び Processed Food に加え Fresh Fruits・Vegetables (Packaging & Transportation) につき協力して欲しいとの要請が出された。この追加要請は、DEP チャーレ局長が日本を訪問した際、他の ASEAN 諸国の同産品と比較し、品質的には劣るものではないのに輸送過程の技術が不十分なため日本市場に於て、正当な評価を得られていないとの実際の経験を踏えたもので、タイ側としては、今後多くの市場に同産品の輸出の促進を考えており、そのため是非ともこの分野につき協力を得たいとしている。

2. 今後の課題

R/D 終了後の協力については、今後フォロー・アップ協力が必要であるとの判断にたって、エバ・チームとしてはタイ側に対し、右協力に対する正式要請を速やかに提出するように申し入れるとともに、その期間が1年間であることを踏まえタイ側に対し、短期専門家派遣に必要な T/R (Terms of References) の送付等諸手続きを早急に行なうよう書簡にて申し入れた。(別添)

また、TTC カンチャナ所長に対して、日本人専門家帰国後は双方の連絡に時間がかかる懸念があることから7月中旬までに、フォロー・アップ期間の短期専門家の具体的な T/R を提出するよう重ねて口頭にて要請した。

3. フォローアップ協力

(1) フォローアップ期間（1年間）の協力分野

① Specific Items

i) Garment

ii) Processed Food

iii) Fresh Fruit & Vegetables (Packaging and Transportation)

② Business Japanese

(2) 協力の規模（専門家派遣）

タイ側からの要望によるとフォローアップ期間に Specific Items に関し 15 man months ということである。この期間は、プロジェクト・サイトに長期専門家が残らないため、1つの Item については、3名1グループ程度で派遣することとし、そのため、専門家派遣に必要な T/R 等を少なくとも当該専門家派遣の3ヶ月前にタイ側から提出せしめ、可能な限り派遣前準備を行なうとともに、当該専門家のうちコアとなる者1名程度を先発させ、現地での情報集収・準備等を行なった上で技術移転（セミナー開催）を実施する方法が現実的と思われる。

Business Japanese については、短期専門家1名で対応とする。

(3) その他

専門家の T/R については、7月中旬までに提出されることになっているが、先方の手続きが遅くなった場合は日本側で、タイの現状を把握し技術協力の内容を詰めた上、タイ側に提示することが必要となることも考えられる。

別添

May 28, 1987

Mr. Chare Chutharakul
Director-General,
Department of Export Promotion,
Ministry of Commerce,
The Kingdom of Thailand

Dear Mr. Chare

I thank you very much for your excellent guidance in facilitating my team's survey activities of the technical cooperation implemented by the JICA experts since September 5th, 1983. Your colleagues' adequate assistance has enabled us to fully achieve the objectives of our team.

In this connection I would like to request that you will draw your attention to the following few points in order to successfully finalize the follow-up cooperation, on which both parties, I believe, share the same view:

- (1) An official request on the follow-up cooperation should be issued at your earliest convenience.
- (2) All forms duly filled in and T/R (Terms of References) of requested expertise should reach JICA Headquarters in three months prior to the proposed dispatching date of expert(s) concerned.

I am in confidence that our request above mentioned will be thoroughly followed by your colleagues only to implement the follow-up cooperation with a success.

Thank you once again for your cooperation and all assistance extended to us. Please convey my best regards to your fellow officials whose kindness extended to me. All of my colleagues will surely join me in expressing their appreciation.

I remain,

Respectfully yours,

飯村 圭二

Keiji Iimura

V プロジェクトの分野別評価

1. 貿易研修・展示

(1) 概況

タイ貿易研修センターにおける本分野に対する技術協力については、タイ側カウンターパートが配置されておらず、従って、プロジェクト当初日本側が期待していた同センターに専属する貿易実務に関するエキスパートの育成はなしえなかった。

しかしながら、同センターの施設面の活用についていえば（機材関係は除く）、各種セミナーの開催は、外部講師の招聘によってタイ側自身の手によって開催されており（61年10月時の巡回指導調査団においても確認されているところ）、エキシビションともあわせて、それらはタイ側独自のマネジメントによって実施されているところからみて、貿易及び展示実務を指導できるエキスパートは育てていないものの、企画、立案等各種セミナー及びエキシビションに関するマネジメントの技術については十分育成されたといえる。係る状況からみて、同センターは、必ずしも十分満足のいく程度に使用されているかという点については、評価の別れるところではあるが、少なくとも過去一部で指摘されたごとく同センターが使用されていないという評価は、施設面に関する限り必ずしも適切なものではないといえることができる。

現に、当調査団の滞在中においても、TRADE TALK と銘打ったセミナーが同センターの大講堂を使用して連日開催されており、また、エキシビション・ホールにおいても展示・即売会が開催中であった。

他方、貿易研修分野にかかわる機材について最大の問題は、LANGUAGE LABORATORY に設置された電子機器であり、これが常用されていない状況については一見して明白な状態にある。

一般的にいて、係る電子機器は、電流を流さずに長期間放置すると部品の劣化等が生じ好ましくなく、従って、本件機材の物理的保管状況についても考慮する余地がある。

(2) 評価

上記分野において実施してきた我が国の技術協力については、前述のとおり、ことマネジメントに関するかぎり、実行力のある能力としてタイ側に受け継がれ、かつその能力を十分活用して運営されていることとあり、同センターの管理・運営等に係るマネジメントの技術移転については、確実な技術協力効果があったと評価できる。

(3) タイ側の新たな要請

5月26日、当調査団飯村団長とチャレ局長との協議において、同局長から日本市場への進出可能な商品に関し実行性ある協力について種々の期待が表明された。

具体的には、タイ側は、貿易研修分野において個別商品における貿易研修を実施するのに

関し、従来から我が国に要請されている①服飾、②木工製品、③加工食品、④電機部品、⑤宝石デザインの内当方が提示した①及び③の貿易研修に加えて PACKAGING と TRANSPORTATION (FRESH FRUIT等)に関する技術協力について、チャーレ局長自ら強い要請があった。

これに対し、飯村団長から R/D の延長は行なわないこと、引き続き協力するに当たっては、現行 R/D の範囲内で Follow Up になること等を説明した。

同局長も、本件技術協力がタイの貿易促進に有益であったとの基本的認識を示し、そのうえで Follow Up 期間においては短期派遣専門家による実効性のある協力を引き続きお願いしたいとのことであった。

(同局長は、自らの判断として、長期専門家の派遣は不要であること、短期専門家の受け入れ体制等については、タイ側が独自に対応できること、その実績もあること等を協調した。)

(4) タイ側要請に対する対応

上記局長の要請に対し当調査団は、日本での対処方針に基づき検討した結果、本年が日・タイ通商100周年の年であること等に鑑み、本プロジェクトの性格からみても可能なかぎり積極的に対応すべきであるとの認識のもと、別添ミニッツの内容による Follow Up 期間中の協力を実施することで合意することとなった。

(5) Follow Up 期間における技術協力実施上の留意点

1) Follow Up 期間における技術協力の暫定スケジュールは、別添ミニッツの ANNEX Aのとおりであり、短期専門家の派遣に当たってはタイ側との協議のなかで年間15 MAN/MANTHS 程度とすることで合意したが、本協力の実施に当たっては日本人の長期専門家は派遣されないことになり、従って、同期間中一貫して企画立案、短期専門家の受け入れ等を行なう者がいないため、短期専門家の受け入れ等の庶務については、チャーレ局長は責任をもってタイ側が実施する旨表明しているものの、その実施に当たっては JICA バンコック事務所による Follow 等十分な配慮をする必要がある。

2) 実施に当たっての具体的方法としては、A1フォーム等の必要要請書類については現 R/D 期間中長期専門家が派遣されている間に包括的な内容の記載をさせた上で、事前に処理しておくべきである。

そのうえで、個別の実施をするに当たっては、各短期専門家チームに次回の短期専門家チームの派遣にかかわる企画立案等マネージする専門家を参加させ、対象分野に対するタイのニーズ、それに対応する次回派遣専門家の条件、現地邦人 (JETRO等) との連携方法等をマネージさせるような方法も考えるべきであろう。

3) 加えて、Follow Up 期間中の貿易研修における短期専門家の派遣に当たっては、当センターに設置されている各種機器 (検査機器を含む。) をうまく活用した協力の方法をスケジューリングすべきであり、派遣に当たっては、当該短期専門家に対し、当センターに

設置されている機器リストを必ず配布すべきである。

- 4) また、日本語研修については、L・Lの保守管理につき前期のとおり注意すべきものがあり、現在のように常温状態(3.0度C以上か。)で長期間置かれていることのないよう管理面に十分配慮すべきである。

2. 規格・品質管理(工業産品(繊維))

(1) 概況

タイ国では輸出絹製品の品質を維持、向上させるため、絹織物の幅、長さ、密度、織度(番手)及び染色堅ろう度等の基本的な品質を規定した、輸出、規格及び検査基準を設け、OCS(Office of Commodity Standards)において輸出検査を行っている。しかし、検査の実態は単に織物の幅を確認するのみであり、他の品質項目についてはまったく検査していない現状であった。この主な原因は、OCSの試験・検査機材の不足と技術の未熟さであると思われた。

そこで、我が国はTTD(Trade Training Division)に対して、試験・検査機材を供与するとともに、1984年4月から1987年3月の間、専門家派遣及び研修員の受け入れによって、試験・検査技術の移転を行った。

(2) 供与機材等の活用状況及び管理状況

1) 活用状況

我が国からの供与機材及び専門家の携行機材は「主要供与機材の利用管理状況調査」に示すとおりである。

本分野では、OCSにおいて、日常、試験・検査業務に従事している職員がカウンターパートとなったため、当該カウンターパートは専門家の派遣期間中のみTTDに出向してくる。このため、TTDに設置した試験・検査機材は専門家の派遣期間に集中して活用されている。この期間中以外であっても、必要に応じてOCS職員がTTDに出張し、機材を活用しているとのことであった。

また、近く、生機検反機の設置場所をTTDから輸出検査の実施現場であるOCSに移すとともに、同機に織物巻き取り装置を新たに装備するとのことであり、今後、TTD自らが開催する品質管理研修等において、検査実態に合った内容の充実した研修ができ、同機の有効な活用が期待できる。

さらに、先に派遣された専門家は、本技術協力が終了した後も、TTDが自ら品質管理に関する研修事業を支障なく遂行できるよう、TTDに対し、別表1-1~1-2に示すカリキュラム(案)を提示しており、今後、TTDが研修事業を継続的に実施することによって、各機材は有効に活用されるものと思われる。

2) 管理状況

機材の管理状況は「主要供与機材の利用管理状況調査」に示すとおりであり、洗濯堅ろう度試験機を除いては、すべて使用可能状態に管理されていることを確認した。

洗濯堅ろう度試験機については、水槽からの水漏れ及び水汲み上げポンプの故障が発見されたため、修理等の措置を調整員に伝えた。同機は運転に際し水を使用するため、回転部分の転受けや、溶接部分が腐食しやすい。このため、使用後の水抜きや、定期的な空運転を確実に実行する必要がある。

なお、本プロジェクト終了後の各機材のメンテナンスは、タイ側で機材保守管理用員として雇用された Mr. Vichanart がタイ国における日本の機材メーカーの代理店 BECT-HAI BANGKOK EQUIPMENT & CHEMICAL CO., LTD (1017-1019 Papholyothin Road, Bangkok 4, Thailand (TEL 279-2903)) の協力を得て行うこととなった。

(3) 専門家派遣

専門家の派遣実績は、次表に示すとおりであり、ほぼ当初計画どおり実施された。

派遣時期	専門家名	所属機関
1984年4月27日～7月26日	三木常秀 鷺坂和美	通商産業検査所
1985年4月21日～7月19日	加藤 稔 塚越郁生	
1986年8月1日～11月15日	三木常秀 塚越郁生	

さらに、今後、本分野の専門家2名が派遣される予定である。

本分野の技術移転は、全研修課程を3段階に分け、

① 第一段階（第一年次）では

- 我が国の輸出検査制度の紹介
- 検査の必要性
- 繊維の基礎知識
- 絹織物の試験・検査技術

② 第二段階（第二年次）では

- タイ国の検査基準を運用するために必要な試験・検査技術

③ 第三段階（第三年次）

- 絹織物の試験・検査技術

○ 縫製品の試験・検査技術

について技術移転が行われた。これらの研修に用いられた教材は別表2に示すとおりであり、TTDの書棚に整理され、保管されている。

また、3年間の協力期間中に、カウンターパートが講師となって、2回のワークショップを開催しており、延20名のOCS職員が受講している。

本分野のカウンターパートは、先にも述べたようにOCSに所属する職員である。カウンターパートの氏名と年次ごとの配置人数を次表に示す。

カウンターパート名	年令	年次別配置			その他
		第一年次 (3名)	第二年次 (2名)	第三年次 (3名)	
Mr. Amarin Kongpun	41	○	○	○	漁業専攻 日本での研修予定 (1987)
Mr. Pichet Intaparanich	29	○	○	○	繊維専攻 日本での研修済 (1985)
Mrs. Porntip Sritalanont	33	○	—	○	化学専攻

これらのカウンターパートの技術修得度は、ほぼ目標に達していると思われるが、官能による判定能力が要求される織物の外観検査及び染色堅ろう度判定については、さらに繰返し訓練が必要と思われる。したがって次回、派遣予定の専門家は、これらの項目を重点に研修を進める必要がある。

(4) 研修員の受け入れ

専門家派遣と並行して、我が国への研修員受け入れを行い通商産業検査所において試験・検査の実習が行われた。研修員の受け入れ実績を次表に示す。

受け入れ時期	研修員名
1984年 6月14日～ 8月21日	Ms Suwimol Tikinanond
1985年11月12日～12月17日	Mr. Pichet Intarapanich
1987年 1月12日～ 3月31日	Mr. Amarin Kongpun

なお、本年6月末にさらに2名の研修員を受け入れる予定である。

別表 1 - 1

PHASE I TRAINING COURSE CURRICULUM

Objective of the course	Training item	Objective of each item	Textbook	Relevant references	Testing apparatus	Time needed (hours)	
To train OCS officials in improving their techniques of inspection and testing required by more effective implementation of the existing Thai export standards for silk fabrics.	Identification of Textile Fibers	To acquire four identifying techniques of Thai Silk and Thai Juri components.		FIBER (JICA)	Gas burner Alcohol lamp Microscope Hot plate Draft Chamber	SI - 8 D - 17 D - 4 D - 6	
	Burning Test	To acquire quantitative analyzing techniques of Thai Juri mixture ratio.	Phase I Training Course Textbook	FKOF (JICA)			
	Microscopic Test						
	Staining Test						
	Solubility Test						
	Fiber Mixture Ratio for Thai Juri	To acquire measuring techniques of warp yarn size of Thai Silk fabrics designated in the Thai export standard.				Analytical balance Hot air oven Shaking machine Water bath Handy Aspirator Standard hydrometer	D - 1 D - 5 D - 7a D - 12 D - 15b SIF-10
	Physical Test for Thai Silk Yarn Fineness (Size)	To acquire measuring techniques of warp yarn density of Thai Silk fabrics designated in the Thai export standard.				Analytical balance Torsion scale	D - 1 D - 42
	Physical Test for Thai Silk Density of Fabrics.	To acquire standard appearance inspection technique of silk fabrics.				Luno meter Textile analysis glass	SI-13 SI-1
	Quality Inspection of Silk Fabrics	To learn knowledges of fabric defects required by appearance inspection of Thai Silk and Thai Juri fabrics.				Fabric inspection machine Yard setter Luxo meter	D - 51 D - 50 D - 52
	Weaving Defects	To learn knowledges of clothes part and their checkpoints needed for appearance inspection of Thai Silk Products					
Clothes Part and Checkpoint	To learn knowledges of defect of garments required by appearance inspection of Thai Silk Products						
Defects of Garment							
					Total	27	

(for 5 days)

*NOTE : FKOF means "Fundamental knowledge on Fiber", a textbook prepared by JICA

PHASE II TRAINING COURSE CURRICULUM

Objective of the course	Training Item	Brief	Textbook	Relevant references	Testing apparatus/manual	Time needed (hours)	
To train OCS officials in acquiring more advanced assessing techniques of textile performance required by future quality control of textile.	Color Fastness Test	By colour fastness is meant the resistance of the colour of textiles to the different actions of agencies, to which the textiles may be exposed during manufacture and subsequent use. In colour fastness are included two kinds of character, namely change in colour and staining. Therefore, colour fastness is assessed individually with respect to change in colour of the specimen and with respect to staining of undyed cloth adjacent to the specimen.	Phase II Training Course Textbook	JIS L 0801	CIE D65 Standard Source	3.5	
	to Washing			0803	Portable Sewing Machine		
	to Perspiration			JIS L 0844	Laundex Tester	D-45	2.5
	to Dry cleaning			JIS L 0848	Water Bath	D-43	
	to Rubbing			JIS L 0860	Perspiration Tester	D-47	2.5
	to Carbon arc lamp light			JIS L 0849	pH meter	D-10	
	Tensile Strength Test for Ordinary Woven Fabrics	These methods cover procedures for determining the breaking load and elongation of textile fabrics using the Grab and Ravelled Strip methods.		JIS L 1096	Laundex Tester	D-45	2.5
	Test for Slippage Resistance for Woven Fabrics	This method covers the determination of the resistance to slippage of filling yarns over filling yarns, using a standard seam.		JIS L 1096	Rubbing meter	D-44	2.0
	Test for Seam Strength of Clothes	This method covers the determination of the damage to seam seams in clothes when load is applied perpendicularly to the seam using the Grab Test. The seam seams may be obtained from previously sewn articles such as garments or may be prepared from fabric samples using either a specified or a standard seam.		JIS L 1093	Crock meter	SIII-11	
	Determination of twist in yarns	This method covers the determination of the amount and direction of twist at the completion of any stage of twisting in single (spun or filament), plied, cabled, or novelty (exclusive of long-term repeat patterns) yarns. The procedures are designed for yarns from fabrics and in packages.			UV Long-Life Trade Meter	D-46	2.5
Test for Shrinkage Percentage of Woven Fabric	The test specimen is subjected to steeping in the specified way and shrinkage percentage of the specimen is determined from the lengths obtained before and after the treatment.		JIS L 1096	Tensile Strength Tester	D-31	2.0	
			JIS L 1042	Yarn Twist Tester	D-41	2.0	
				Fabric Shrinkage Tester	D-49	2.5	
					Total	26	

(for 5 days)

Textbook etc.		Training Step					
		Step I		Step II		Step III	
		G.I.	T.	G.I.	T.	G.I.	T.
Quality Inspection of Silk - color slide -	prepared by MITI	○					
Test of Textile - color slide -	prepared by MITI		○				
Instruction manual of various equipments		○	○	○	○		○
Thai Export Standard for Silk Fabrics and Silk Products	Thai Standard	○	○	○	○	○	
The Criteria and Procedures of Arrangement for Inspection and Standards Inspection for Silk Fabrics and Silk Products	Thai Standard	○	○	○	○	○	
Fibers	prepared by JICA	○	○	○	○		
Fundamental Knowledge on Fibers	prepared by JICA	○	○	○	○		
General Principles of Testing Methods for Color Fastness	JIS L 0801		○		○		
Standard Adjacent Fabrics for Staining of Color Fastness Test	JIS L 0803		○		○		
Testing Method for Color Fastness to Sunlight and Daylight	JIS L 0841				○		
Testing Method for Color Fastness to Carbon Arc Lamp Light	JIS L 0842				○		
Testing Method for Color Fastness to Washing	JIS L 0844				○		
Testing Method for Color Fastness to Perspiration	JIS L 0848				○		
Testing Method for Color Fastness to Rubbing	JIS L 0849				○		
Testing Method for Color Fastness to Dry Cleaning	JIS L 0860				○		
Testing Method for Quantitative Analysis of Fiber Mixtures	JIS L 1030		○		○		○
Testing method for Shrinkage Percentage on Woven Fabrics	JIS L 1042				○		
Testing Method for Fabrics	JIS L 1096		○		○		○
Weaving Defects (Classification)	prepared by Japanese Expert	○		○			
Definitions of Weaving Defects	prepared by Japanese Expert	○		○			
Japanese Quality Standard for Export Inspection (Silk fabric, Silk products)	prepared by Japanese Expert	○		○		○	
Checking point of Garments	prepared by Japanese Expert					○	
Identification of Textile Fibers	prepared by Japanese Expert		○		○		
Textile Binary Mixture Quantitative Chemical Analysis.	prepared by Japanese Expert		○		○		
Color Fastness Test	prepared by Japanese Expert		○		○		
Procedure of Some Major Color Fastness Tests for Fabrics	prepared by Japanese Expert				○		○
Tensile Strength Test for Ordinary Woven Fabrics	prepared by Japanese Expert				○		
Testing Method of Slippage Resistance for Woven Fabrics	prepared by Japanese Expert						○
Testing Method for Seam Strength of Clothes	prepared by Japanese Expert						○

Note : G.I. = General Inspection
T. = Testing

3. 規格品質管理（農産品）

(1) 研修状況

1) 研修品目

研修は、タイ王国における主要輸出農産品の品質管理を向上させることを目的として、外国貿易局商品規格検査所（OCS）の担当職員を対象に、品質管理のための中核である検査技術、知識及び手法についての技術等の向上を図るため、①メイズ、②ソルガム、③タピオカ、④マングビーン、⑤フィッシュミール、⑥ケナフ・ジュート、⑦カボックの7品目及びアフラトキシンの検出技術を対象として行っている。

2) 研修の実施状況

各品目ごとにOCSから派遣されたカウンターパート（C/P）は、ステップⅠからⅡの研修を行うことにより、タイ王国の輸出検査規格の各項目に対する検査手法のうち選別分析、測定操作等の技術を修得し（別紙1）、その後C/P自らOCSの検査官及びラボの職員を対象としたワークショップを1～2回実施することができるようになった。

（別紙2-1～2-3）

なお、ステップⅢの研修は本年4～6月に行うこととしており、これをもってC/Pに対する検査技術の移転が完了することとなるが、この間、31回（延べ1331.5時間）の研修を開催している。（別紙3-1～3-3）

今後は、ワークショップ等の場を通じて、C/Pは広くOCSの検査官及びラボの職員に対し検査技術の指導を行うことができるものと見られる。

3) 技術移転の達成状況

Standardization & QC (Agricultural products)

カウンターパート及び研修生の研修状況 規格品質管理（農産品）

カウンターパート 及び研修生氏名	項 目 担当品目	検 査			測定試験		ワークショップ		ステップⅢ 基準品作成
		測定試 料作成	測定器 具操作	試料の 選別分析	試分 析	測定器 具操作	運 営	技 術	
Mr. Samreng Lengpaibool	全品目	—	—	—	—	—	—	—	—
Mr. Chinaratana Sawatdipanee	#	A	B	B	B	B	A	B	—
Mr. Somsak Tanasupawat	#	A	B	B	B	B	A	B	B
Ms. Jintana Nateesatitarn	メイズ	A	A	A	A	A	A	A	—
Ms. Nongnoot Singhaphandhu	#	A	A	A	A	A	A	A	—
Ms. Suree Viriyakitpatana	ソルガム	A	A	A	A	A	A	A	—
Ms. Wanna Kongcharoenchittikul	#	A	A	A	A	A	A	A	—
Mr. Suchart Arunakul	タピオカ	A	A	—	A	A	—	—	—
Ms. Khanittha Virattanapanu	#	A	A	—	A	A	—	—	—
Mr. Suvit Rujiranyong	マングビーン	A	A	A	A	A	A	A	A
Ms. Patra Kupapithayanan	#	A	A	A	A	A	A	A	—
Mr. Bundit Phurkhae	ケナフ&ジュート	A	A	A	A	A	B	A	—
Mr. Weerachai Nopsuwanvong	カボック	A	A	A	A	A	B	A	—
Mr. Piyachart Supanaquila	フィッシュミール	A	—	—	B	B	—	—	—

A：インストラクターに十分な技術をマスターしている。 B：技術移転は完了しているが更に自らの繰返し練習が必要
C：技術的に未熟な点があり更に日本人専門家による研修が必要 (注) アフラトキシンは除く。

4) 今後の研修方法

① 研修制度の活用

検査官は、適正な検査を実施するため常に一定水準の検査技術を維持することが必要である。

したがって、OCSにおいては、今後更に検査官に係る検査精度の維持向上及び検査技術程度の統一を図るため、C/Pが中心となってTTCの研修制度を活用する等により定期的に検査技術の指導を行うことが望ましい。

② 研修におけるTTCの活用

ア 研修の管理等

TTC等は、研修制度に基づき研修計画を策定することとなるが、この場合農産品の生産流通状況を踏まえた研修計画を立てることが望ましい。

TTCの研修施設における研修では、基礎的な検査手法や機器類の操作測定を反復して行うことが重要であり、このことが検査技術の維持向上に寄与するものと確信する。

また、これらの研修施設を維持管理する者を置くことにより、より適切な研修が期待できる。

イ 器材器具の保守

TTCの研修用器材器具は、農産品のほか工業製品等にも使用するため多種にわたるが、特定の器材器具については、常時点検整備し、常に研修可能な状態を保つことが望ましい。

ウ TTCの活用

検査技術の指導は適当な時期に繰り返し、的確に実施することが望ましいが、TTCの研修施設は、OCS、他の機関（TISTR=タイ科学技術研究所）等とも離れているため、研修頻度が少なくなることも考えられるので、関係者と十分協議し、効果のある研修計画を立てることが望ましい。

5) OCSの研修評価

プロジェクトの専門家がOCSに対し、これまで実施して来た研修内容等について意見、要望を求めたところ、OCSが「品目別の研修評価」（別紙4-1～4-6）を提出した。

(2) 機材の活用及び維持管理状況

1) 供与機材の利用及び管理状況は、「主要供与機材の利用管理状況調査」のとおり。

別紙 1

研修段階別内容

研修段階		研修内容
ステップⅠ		基礎的な農産物検査技能，知識及び各種測定機器の正しい取扱い，使用方法を修得する。
ステップⅡ	1回目	<ol style="list-style-type: none"> 1 選別分析の基本となる被害粒，未熟粒等について基準の統一を行い，分析精度の統一と向上を図る。 2 各種試験データの収集 <ol style="list-style-type: none"> (1) 各種水分計の原理と正しい使用法を修得し，更に各種乾燥方法との比較試験を行う。 (2) 被害粒，未熟粒等の程度区分毎と発芽粒(勢)及びカビ毒(アフラトキシン)含有量との比較試験を行う。
	2回目	<ol style="list-style-type: none"> 1 標準的分析手順・方法の策定 2 標準的分析手順に従い，研修生自ら分析用試料の作成，器具器材の準備をした後各種測定機器を用い一連の分析測定を行う。
ワークショップ		ステップⅠ及びⅡの研修により修得した検査技能，知識及び各種測定機器を用いて，研修生自らが講師となってOCSの検査担当官に指導を行う。
ステップⅢ		<ol style="list-style-type: none"> 1 選別分析，測定試験，発芽試験及びとう精試験等を実施してデータ収集し品質の対照調査を行う。 2 被害粒等の限界基準品の作成及び保管方法を修得する。 3 スライド及び教材用資料の整備を行う。

COURSE CONTENTS OF SKILL DEVELOPMENT TRAINING

Item	Maize										Sorghum											
	Step I Course		Step II Course		Workshop		Step I Course		Step II Course		Workshop		Step I Course		Step II Course		Workshop					
	Course	Session 1	Session 2	Session 1	Session 2	Session 1	Session 2	Course	Session 1	Session 2	Session 1	Session 2	Course	Session 1	Session 2	Session 1	Session 2	Course				
Training period	July 9-31 '84	Oct 15-19 '84	June 17-27 '85	Sep 25-27 '85	June 24-27 '86	Aug 13-31 '84	Nov 19-23 '84	Sep 16-24 '85	July 15-18 '86	Aug 13-31 '84	Nov 19-23 '84	Sep 16-24 '85	July 15-18 '86	Aug 13-31 '84	Nov 19-23 '84	Sep 16-24 '85	July 15-18 '86	Aug 13-31 '84	Nov 19-23 '84	Sep 16-24 '85	July 15-18 '86	
Training hours	6.5 x 10 = 65	6.5 x 5 = 32.5	7.5 x 9 = 67.5	5.5 x 3 = 16.5	5.5 x 4 = 22.0	6.5 x 9 = 58.5	6.5 x 5 = 32.5	6.5 x 9 = 58.5	6.5 x 5 = 32.5	6.5 x 7 = 45.5	6.5 x 9 = 58.5	6.5 x 5 = 32.5	6.5 x 7 = 45.5	6.5 x 9 = 58.5	6.5 x 5 = 32.5	6.5 x 7 = 45.5	6.5 x 9 = 58.5	6.5 x 9 = 58.5	6.5 x 5 = 32.5	6.5 x 7 = 45.5	6.5 x 9 = 58.5	6.5 x 4 = 22.0
Regular attendants	3	3	4	10	9	3	3	3	3	9	3	3	3	3	3	3	9	3	3	3	10	9
Sample used	5	3	5	2	5	5	3	5	3	5	5	3	4	5	3	2	5	5	3	2	2	5
Training skills	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
1. Basic measurement																						
2. Division	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
3. Discrimination	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
4. Sampling	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
5. Solutioning																						
6. Moisture content analysis	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
7. Set up marginal standard		X	X												X	X						
8. Protein content analysis			X													X						
9. Germination power test																						
10. Starch content analysis																						
11. Fiber content analysis																						
12. Sand content analysis																						
13. Size test																						
14. Test weight		X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
15. Hardness test																						
16. Whiteness test																						
17. Quality collative analysis																						
18. Confirmation of transmured seed																						

COURSE CONTENTS OF SKILL DEVELOPMENT TRAINING

Item	Course	Tapioca						Mung-Bean						
		Step I Course		Step II Course		Step I Course	Workshop		Step II Course		Workshop		Step III Course	
		Session 1	Session 2	Session 1	Session 2		Session 1	Session 2	Session 1	Session 2	Session 1	Session 2	Session 1	Session 2
Training period	Sep. 25 - Oct. 5 '84	Mar. 25-29 '84	Nov. 25-28 '85	Mar. 24-27 '87	Apr. 15-16 '85	May 13-24 '85	July 8-19 '85	July 22-25 '85	July 22-25 '85	Nov. 16-19 '86	July 22-25 '85	July 22-25 '85	Nov. 16-19 '86	Apr. 20-28 '87
Training hours	6.5 x 8.5 = 55	6.5 x 5 = 32.5	6.5 x 4 = 26	5.5 x 4 = 22	6.5 x 10 = 65	6.5 x 10 = 65	6.5 x 10 = 65	5.5 x 4 = 22	5.5 x 4 = 22	5.5 x 4 = 22	5.5 x 4 = 22	5.5 x 4 = 22	5.5 x 4 = 22	6.5 x 7 = 45.5
Regular attendants	3	2	2	4	3	3	3	13	13	8	8	8	4	
Sample used	2	4	4	3	5	4	5	3	3	3	3	3	3	
Training skills														
1. Basic measurement	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
2. Division					X	X	X	X	X	X	X	X	X	
3. Discrimination					X	X	X	X	X	X	X	X	X	
4. Sampling					X	X	X	X	X	X	X	X	X	
5. Solutioning	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
6. Moisture content analysis	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
7. Set up marginal standard					X	X	X	X	X	X	X	X	X	
8. Protein content analysis			X											
9. Germination power test					X				X		X		X	
10. Starch content analysis	X	X		X				X						
11. Fiber content analysis	X	X	X	X				X						
12. Sand content analysis	X	X		X										
13. Size test					X	X	X	X	X	X	X	X	X	
14. Test weight					X	X	X	X	X	X	X	X	X	
15. Hardness test	X	X		X										
16. Whiteness test	X	X		X										
17. Quality collative analysis													X	
18. Confirmation of transmutated seed													X	

COURSE CONTENT OF SKILL DEVELOPMENT TRAINING

Item	Course	Fish Meal		Kenaf & Jute		Kapok		Aflatoxin	
		Step I Course	Workshop Session I	Step I Course	Workshop Session I	Step I Course	Workshop Session I	Step II Course	
								Session I	Session 2
Training period		March 10-14 '86	June 9-12 '86	August 26-28 '86	October 7-9 '86	Jan. 21- March 1 '85	Feb. 17- March 7 '86	March 10-27 '86	
Training hours		6.5 x 5 = 32.5	5.5 x 4 = 22	6.5 x 3 = 19.5	5.5 x 3 = 16.5	6.5 x 30 = 195	6.5 x 14 = 91	6.5 x 15 = 97.5	
Regular attendants		2	7	2	8	3	4	4	
Sample used		10	8	2	2				
Training skills									
1. Basic measurement	X		X	X	X	X	X	X	X
2. Division			X	X	X				
3. Discrimination			X	X	X				
4. Sampling			X	X	X				
5. Solutioning	X								
6. Moisture content analysis	X		X	X	X	X	X	X	X
7. Tensile strength test			X						
8. Aflatoxin analysis						X	X	X	X
9. Protein content analysis	X								
10. Ash content analysis	X								

Training Course (Agricultural Products)

Course	From	To	Hours
maize step 1	84/ 7/ 9	84/ 7/11	19.5
maize step 1 (continued)	84/ 7/23	84/ 7/31	45.5
sorghum step 1	84/ 8/13	84/ 8/17	32.5
sorghum step 1 (continued)	84/ 8/27	84/ 8/31	26.0
tapioca step 1	84/ 9/25	84/10/ 5	55.0
maize step 2-1	84/10/15	84/10/19	32.5
sorghum step 2-1	84/11/19	84/11/23	32.5
aflatoxin 1	85/ 1/21	85/ 3/ 1	195.0
tapioca step 2-1	85/ 3/25	85/ 3/29	32.5
mung beans step 1	85/ 4/15	85/ 4/26	65.0
mung beans step 2-1	85/ 5/13	85/ 5/24	65.0
maize step 2-2	85/ 6/17	85/ 6/27	58.5
mung beans step 2-2	85/ 7/ 8	85/ 7/19	65.0
workshop 1 (mung beans)	85/ 7/22	85/ 7/25	22.0
sorghum step 2-2	85/ 9/16	85/ 9/24	45.5
workshop 1 (sorghum, maize)	85/ 9/25	85/ 9/27	16.5
tapioca step 2-2	85/11/25	85/11/28	26.0
aflatoxin 2-(1)	86/ 2/17	86/ 3/ 7	91.0
aflatoxin 2-(2)	86/ 3/10	86/ 3/27	97.5
fish meal step 1	86/ 3/10	86/ 3/14	32.5
kenaf & jute step 1	86/ 5/26	86/ 5/30	32.5
workshop 1 (kenaf & jute)	86/ 6/ 9	86/ 6/12	22.0
workshop 2 (maize)	86/ 6/24	86/ 6/27	22.0
workshop 2 (sorghum)	86/ 7/15	86/ 7/18	22.0
kapok step 1	86/ 8/26	86/ 8/28	19.5
workshop 2 (mung beans)	86/ 9/16	86/ 9/19	22.0
workshop 1 (kapok)	86/10/ 7	86/10/ 9	16.5
workshop 1 (tapioka)	87/ 3/24	87/ 3/27	22.0
mung beans step 3	87/ 4/20	87/ 4/28	45.5
sorghum step 3	87/ 6/	87/ 6/	26.0
maize step 3	87/ 6/	87/ 1	26.0

*** TOTAL ***

1331.5

別紙 3 - 2

Training Course by Item

Course	From	To	Hours
maize step 1	84/ 7/ 9	84/ 7/11	19.5
maize step 1 (continued)	84/ 7/23	84/ 7/31	45.5
maize step 2-1	84/10/15	84/10/19	32.5
maize step 2-2	85/ 6/17	85/ 6/27	58.5
maize step 3	87/ 6/	87/ /	26.0
*** TOTAL ***			182.0

Course	From	To	Hours
sorghum step 1	84/ 8/13	84/ 8/17	32.5
sorghum step 1 (continued)	84/ 8/27	84/ 8/31	26.0
sorghum step 2-1	84/11/19	84/11/23	32.5
sorghum step 2-2	85/ 9/16	85/ 9/24	45.5
sorghum step 3	87/ 6/	87/ 6/	26.0
*** TOTAL ***			162.5

Course	From	To	Hours
tapioca step 1	84/ 9/25	84/10/ 5	55.0
tapioca step 2-1	85/ 3/25	85/ 3/29	32.5
tapioca step 2-2	85/11/25	85/11/28	26.0
*** TOTAL ***			113.5

Course	From	To	Hours
mung beans step 1	85/ 4/15	85/ 4/26	65.0
mung beans step 2-1	85/ 5/13	85/ 5/24	65.0
mung beans step 2-2	85/ 7/ 8	85/ 7/19	65.0
mung beans step 3	87/ 4/20	87/ 4/28	45.5
*** TOTAL ***			240.5

Course	From	To	Hours
kenaf & jute step 1	86/ 5/26	86/ 5/30	32.5
*** TOTAL ***			32.5

Course	From	To	Hours
fish meal step 1	86/ 3/10	86/ 3/14	32.5
*** TOTAL ***			32.5

Training Course by Item

Course	From	To	Hours
kapok step 1	86/ 8/26	86/ 8/28	19.5

*** TOTAL *** 19.5

Course	From	To	Hours
workshop 1 (mung beans)	85/ 7/22	85/ 7/25	22.0
workshop 1 (sorghum, maize)	85/ 9/25	85/ 9/27	16.5
workshop 1 (kenaf & jute)	86/ 6/ 9	86/ 6/12	22.0
workshop 2 (maize)	86/ 6/24	86/ 6/27	22.0
workshop 2 (sorghum)	86/ 7/15	86/ 7/18	22.0
workshop 2 (mung beans)	86/ 9/16	86/ 9/19	22.0
workshop 1 (kapok)	86/10/ 7	86/10/ 9	16.5
workshop 1 (tapioka)	87/ 3/24	87/ 3/27	22.0

*** TOTAL *** 165.0

Course	From	To	Hours
aflatoxin 1	85/ 1/21	85/ 3/ 1	195.0
aflatoxin 2-(1)	86/ 2/17	86/ 3/ 7	91.0
aflatoxin 2-(2)	86/ 3/10	86/ 3/27	97.5

*** TOTAL *** 383.5

The evaluation of the trainings of Products Inspection and Quality Analysis on Maize, Sorghum, Tapioca Products, Mung Bean, Kenaf and Jute, Fishmeal, Aflatoxin, Silk and Silk Product at TTD, DEP with Japanese experts who are:

- | | | |
|-------------------|---|----------------------------------|
| 1. Mr. Kaga | } | Experts on Agricultural Products |
| 2. Mr. Ishii | | |
| 3. Mr. Umeno | | |
| 4. Mr. Matsubara | } | Expert on Aflatoxin |
| 5. Mr. Miki | | |
| 6. Mr. Sagisaka | } | Experts on Industrial Products |
| 7. Mr. Kato | | |
| 8. Mr. Tsukagoshi | | |

The train trainees from OCS are as follows:

1. The trainees in the field of Agricultural Products are:

1. Mr. Sumrueng Lengpiboon
2. Mr. Chinaratana Sawathipanee
3. Mr. Somsak Tanasupawat
4. Mr. Suchart Arunakul
5. Mr. Suvit Rujiranyong
6. Mr. Piyachart Supunkul
7. Mrs. Songsri Nopsuwanwong
8. Mrs. Wandee Singhasut
9. Mrs. Suree Viriyakitpathana
10. Mrs. Nongnoot Singhaphant
11. Miss Pathra Kuppitayanun
12. Mrs. Jintana Nateesatithan
13. Mr. Sermsak Sirowet
14. Mr. Weerachai Nopsuwanwong
15. Mr. Bundit Phurkhao
16. Miss Yosvadee Massinsuk
17. Miss Wanna Kongcharoenchittikul
18. Miss Pornpun Areechit
19. Miss Supichnee Hotarapavanon

2. The trainees in the field of Industrial Products are:

1. Mr. Amarin Kongpun
2. Mr. Pichet Intarapanich
3. Mrs. Pornthip Sritaranon

The above officials had expressed their opinions regarding this training course as per the evaluation sheet of each product as attached which can be concluded that it has achieved its goal and objective. The officials have acquired knowledges and skills in Product Inspection and Analysis. They can operate new techniques and modern equipments. The officials can act as instructors in transferring the knowledges they have acquired to other officials. It appears currently that these officials have performed their duties in inspecting the quality of Agricultural and Industrial Products every day. When OCS has arranged the project of Private Inspector regarding the training of Product Quality Inspection, these officials are also to be the trainers every time.

Maize

Following the attendance in the course of training the inspection on Maize by Japanese experts, Mr. Seiji Kaga and Mr. Kazuyuki Ishii, the officials have acquired more knowledges about the analysis of different quality of the seeds such as the immature seeds, seeds destroyed by weevils and spoiled seeds. The officials have obtained the same nature of knowledges regarding the standardization, they, therefore, are very confident in transferring their knowledges to the officials who have the duties of inspecting the standard of maize product which presently we (Mrs. Jintana Nateesatithan and Mrs. Nongnoot Singhaphant) have been appointed as trainers of product standardization inspector of both government and private sectors.

Sorghum

We, Mrs. Suree Viriyakitpathana and Miss Wanna Kongcharoenchittikul have been trained for the inspection on sorghum by Japanese experts namely, Mr. Ishii and Mr. Kaga at TTD, DEP, we have obtained more knowledges about the quality analysis of sorghum. Normally, the agricultural products are different in each seed although they are of the same breed or the same tree, and therefore make it very difficult to analyse and frequently cause some argument about the physical quality of sorghum. After we have attended the course, we have possessed a good understanding and same measurement. We also obtained the knowledge about the usage of different analysis equipment and other methods of analysis which we have never used before, such as the moisture analysis in different temperature. We are able to recommend our knowledges to other working colleagues.

Tapioca Products

Whereas OCS had inspected and analysed the tapioca products for so long, therefore it acquired good skills in quality inspection and analysis. The benefits which have been obtained from this training are the practice of researching about the percentage of moisture in different temperature which will produce the same results but using different time. This is very beneficial to the moisture test in case the exporters need quick result. Besides, the trainees also studied the modern Digital Polarimeter which OCS presently still uses the outmoded equipment. However, this training course provides more confidence to the trainees for training the others.

Kenaf and Jute

The benefit which has been acquired from the training of inspecting and analysing Kenaf and Jute is to enable the trainees to know the method of moisture test in different temperature and the modern equipment such as Fiber Strengthen Equipment. They have also studied and practised in its other natures and qualities. It helps reviewing their former knowledge which they have regularly practised. It makes them dare decide that what qualities those products have had and can transfer the knowledges to the others.

Mung Beans

The training course in Mung Beans has met full and all of its objectives. Whereas Mung Beans are issued to be the new standard products, OCS has never inspected before, especially, the measurement of percentage of seeds' sprout. Therefore, the trainees are able to use such knowledge they have obtained from the training course to operate their work and have enough knowledge to train the others.

Aflatoxin

The work on Aflatoxin is a new work of OCS and it is a complicated work because the usage of Aflatoxin Analysis equipment has many complicated steps and is dangerous to workers if they are not careful enough. OCS, therefore, send 6 officials to attend the training course with Japanese expert, Mr. Isao Matsubara, in order that these 6 officials can help this work together. Mr. Isao Matsubara has trained the usage of equipment including the different method of analysis such as Minicolumn method, CB method, Sep-Pak method, AOAC method and Black Light test, etc., in order to compare among each other and to train to others as well.

Fishmeal

Fishmeal is issued to be a new standard product which OCS has never inspected before. The attendance of the training course in the fishmeal inspection enables the trainees to get most benefits in using the modern equipment, the method of quality analysis, especially the measurement of percentage of Protein which OCS has never done. The trainees are able to operate and transfer the knowledges to the others. However, the inspection of foreign materials in fishmeal has not been taught but it is expected that the Japanese expert, who was assigned to train in 1987, will further give good advices.

Silk and silk products

In the past, the silk analysis has done simply by Burning Test Method, later on the buying and selling of silk products often has other fibers mixed in the silks, so, it is necessary to inspect the other fibers too. The attendance of this training course has provided most benefits, and it is a good timing when OCS is in need of it, because OCS has practised the introductory method of analysis of Burning Test, Microscopic Test, Solubility Test, Scaining Test, Mixture Ratio including Sampling and measurement and physical inspection and others. From this training, the trainees have wide scope of knowledges about the silk. They have efficiency to inspect and analyse silk and it is believed that they can transfer their knowledges to the others.

「主要供与機材の利用管理状況調査」

主要供与機材の利用管理状況調査

利用状況

- ランク A : 頻繁に使用
B : よく使用
C : 時々使用
D : 特定の時期に集中的に使用
E : 現在のところあまり使用されない
F : 現在のところほとんど使用されていない
G : この一年間全く使用されていない
H : 特別の理由により使用されていない

管理状況

- ランク A : 点検整備が十分行われ、常に使用可能な最良の状態におかれている場合
B : 使用にあたって特段の問題はなく、管理が概ね良好な場合
C : 整備を行えば使用可能な状態に置かれている場合
D : 使用に耐えない状態で放置されている場合
- : 技協での研修では使用していないがタイ側で自主管理

品質管理部門

供与年度	機 材 名	数 量	利用状況	管利状況	備 考
	D-1 a 直示天びん	1	C+D	A	
	1 b デジタル直示天びん	3	A	A	
	1 c 直示天びん	1	A	A	
	1 d 上ざら天びん	1	A	A	
	2 a ラボミル	1	-	-	
	2 b ボールミル	1	-	-	
	2 c 回転粉碎器	1	D	A	
	2 d ロータースピードミル	1	A	A	
	3 冷蔵庫	1	A	A	
	4 ホットプレート	6式	D	A	
	5 a 送風定温乾燥器	2	A	A	
	5 b "	1	C+D	A	
	6 ドラフトチャンバー	5	C+D	A	
	7 a 振とう器	2	D	A	
	7 b "	1	D	A	
	8 a 浴釜炉 (小)	2	D	A	
	8 b " (大)	1	-	-	
	9 計 算 機	4	A	A	
	10 ガラス電極PHメータ	1	D	A	
	11 時 計	5	C+D	A	
	12 恒温水槽	3	D	A	
	13 施 光 計	1	D	A	
	14 低温恒温水槽	2	D	A	
	15 a 真空ポンプ	1	D	A	
	15 d "	1	D	A	
	16 ガスクロマトグラフ	1	-	-	
	17 顕 微 鏡	2	D	A	
	18 真空定温乾燥器	1	D	A	
	19 紫外線照射器	1	D	D	
	20 ケイ光付属装置	1	-	-	

供与年度	機 材 名	数 量	利用状況	管理状況	備 考
D-21	ダブルビーム 分光光度計	1	D	A	
22	ロータリーエバポ レーター	1	D	A	
23	乾式カラム充填機	1	D	A	
24	メディカル クリーザー	1	D	A	
25	低温恒温器	1	D	A	
26	コロニー計算機	1	D	A	
27	フードプロセッサ	2	-	-	
28	高圧滅菌器	1	-	-	
29	大型スイング遠心機	1	-	-	
30a	直熱式脂肪抽出装置	1	D	A	
30b	〃	1	D	A	
31	引張試験器	1	D	A	
32	穀類分類器	3	A	A	
33	オートスタイル	3	A	A	
34	実 験 台	5	A	A	
35	収 納 棚	2	A	A	
36	テーブル	4	A	A	
37	机	10	A	A	
38	実験用流し台	3	A	A	
39	テーブル	2	A	A	
40	上ざら天びん	1	A	A	
41	電動式検燃器	1	D	A	
42	トーションバランス	1	D	A	
43	恒温水槽	1	D	A	
44	摩擦試験機	1	D	A	
45	洗たく堅ろう度試験機	1	D	B	
46	紫外線ロングライフ フェードメーター	1	D	A	
47	汗試験機	1	D	A	
48	標準光源	1	D	A	

供与年度	機 材 名	数 量	利用状況	管理状況	備 考
	D-49 織物収縮度試験器	1	D	A	
	50 ヤードセッティング マシン	1	D	A	
	51 生機検反機	1	D	A	
	52 光電池照度計	1	A	A	
	53 液体比重計	1	D	A	
	54 乾 燥 器	2	A	A	
	55 a 鑑定用鐘板 大	2	A	A	
	55 b 中	2	A	A	
	56 a 粒形テスター 大	1	B	A	
	56 b " 小	1	D	A	
	57 a 三宅式麻袋刺	5	B	A	
	57 b 着検用二重管刺	1	B	A	
	58 a 容積重計	1	A	A	
	58 b "	1	A	A	
	59 ふ る い	1式	D	A	
	60 収集ざら	1式	A	A	
	61 収集びん	300	A	A	
	62 a 大豆水分計	5	D	A	
	62 b デジタル米麦水分計	3	D	A	タピオカ用
	62 c 木材水分計	1	D	A	
	63 可動テーブル	4	A	A	
	64 防 震 台	1	A	A	
	65 ビーカー・フラスコ等	1組	A	A	

携行機材

供与年度	機 材 名	数 量	利用状況	管理状況	備 考
	粉碎器(手回し)	1	A	A	
	＃ (ウイリイ)	1	A	A	
	無錘式上ざら秤ばかり	1	A	A	
	白 度 計	1	D	A	
	グレイナー	1	D	A	
	ケルテックオート	1	D	A	
	発芽試験器	1	D	A	
	落花生水分計	1	D	A	
	クロスピーターミル	1	D	A	
	紙 袋 刺	1	D	A	
	とう精試験器 大	1	D	A	ソルガム用
	＃ 小	1	D	A	＃
	試料均分器	1	D	A	タビオカ用
	鑑定用照明器	1	A	A	簡 易 型
	発芽試験器	1	D	A	＃
	ポータブルミシン	1	D	A	
	クロックメーター	1	D	A	
	粒度選別機(電動式)	1	D	A	
	基準分調(一式)	1	D	A	
	ケナフ用水分計	1	D	A	
	ルノメータ	1	C+D	A	F
	アイロン(TA-603S)	1	C+D	A	F
	アイロン台	1	C+D	A	F
	マグネチスターラ	1	C+D	A	F
	器具乾燥器	1	C+D	A	F
	ライトスコープ	1	D	A	F
	パーソナル小型抜器	1	D	A	F

「エバリュエーション・レポート」及び「ミニッツ」

JOINT EVALUATION REPORT

ON

TECHNICAL COOPERATION PROJECT

FOR

THAI TRADE TRAINING CENTER

May, 1987

BANGKOK, THE KINGDOM OF THAILAND

Mutually attested and submitted

to all concerned

Bangkok, The Kingdom of Thailand

May 28, 1987

飯村 芝門

Keiji Iimura
Leader,
Japanese Evaluation Team,
Japan International
Cooperation Agency,
JAPAN

C. Sukitjavanith

Chachaval Sukitjavanith
Deputy Director General,
Department of Export
Promotion,
Ministry of Commerce,
THE KINGDOM OF THAILAND

Evaluation meeting between the Evaluation Team of the Japan International Cooperation Agency(JICA) and the Department of Export Promotion, Ministry of Commerce on the Trade Training Center Project which is to terminate on September 4, 1987

Date: May 28, 1987

Place: Department of Export Promotion
22/77 Rachadapisek Road, Bangkok, Bangkok

Attendance:

JAPANESE SIDE

JICA Evaluation Team

Mr.Keiji Iimura	-Team Leader Japan International Coope- ration Agency(JICA)
Mr.Satoshi Tobita	-Trade Training, Exhibition Ministry of International Trade and Industry(MITI)
Mr.Toshio Shomura	-Standardization & QC (Industrial Product) -do.-
Mr.Norio Maruyama	-Standardization & QC (Agricultural Products) Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries
Mr.Mitsuhiro Sugano	-Coordinator Japan International Coope- ration Agency(JICA)

JICA Thailand Office

Mr.Michimoto Goto	-Director
Mr.Yoshifusa Shikama	-Representative

TTC Project Expert

Mr.Kiyoshi Aonuma	-Team Leader Trade Training
Mr.Seiji Kaga	-Standardization & QC (Agricultural Products) --do.--
Mr.Yoshitsugu Umeno	-Standardization & QC (Fishmeal Inspection)
Mr.Mitsuhisa Harada	-Coordinator
Mr.Masaharu Otake	-Coordinator

THAI SIDE

Department of Export Promotion

Mr.Chachaval Sukitjavanith -Deputy Director General

Trade Training Division,

Department of Export Promotion

Ms.Kanchana Prasong -Director

Mr.Jayathat Suratanavongkur -Section Chief

Mr.Sirachai Sroithong --do.-

Ms.Sriwattana Nunbhakdi --do.-

Trade Fair Division,

Department of Export Promotion

Ms.Wanvilai Pongsamart -Director

Office of Commodity Standards,

Department of Foreign Trade

Mr.Pornpote Mathurapote -Chief of Laboratory

Mr.Somsak Tanasupawat -OCS officer

Mr.Suvit Rujirayanyong -OCS officer

Department of Technical and Economic Cooperation

Mr.Krisda Piampongsant -Head, Japan Sub-Division

I. INTRODUCTION

1. OBJECTIVE

The Japanese Evaluation Team (hereinafter referred to as "the Team") organized by the Japan International Cooperation Agency (JICA) with Mr. Keiji Iimura as the leader visited the Kingdom of Thailand from May 20 to May 29, 1987 to evaluate the Japan-Thailand Technical Cooperation Project on the Trade Training Center (hereinafter referred to as "the Project") on the basis of the Record of Discussions which was signed on September 5, 1983 between the Japanese Implementation Survey Team and the authorities concerned of the Government of the Kingdom of Thailand.

The Team discussed and studied with the Thai parties concerned and the Japanese experts on a number of aspects regarding the implementation of commitments, activities of the Trade Training Division (TTD) (Note: The Trade Training Center changed its name to the Trade Training Division in April, 1986.) and constraints which may have hampered the past activities.

Through careful studies and discussions, both sides summarized their findings and observations as described in the following chapters.

2. BRIEF BACKGROUND OF THE PROJECT

In 1981, the Government of the Kingdom of Thailand requested the Government of Japan the establishment of the Trade Training Center(TTC) together with the project type technical cooperation.

Upon this request, the Government of Japan sent several survey teams through JICA to Thailand in the aspect of grant aid and technical cooperation.

On the basis of the report and recommendations of the Preliminary Survey Team, the Japanese Implementation Survey Team organized by JICA visited Thailand from August 28 to September 7, 1983 to work out the details of the technical cooperation program for the Trade Training Center Project.

The team discussed and studied with Thai authorities concerned on a number of points related to the project for its effective implementation and management.

After careful studies and discussions, both parties agreed to recommend to their respective governments the implementation of the project as described in the Record of Discussions which was signed on September 5, 1983 between Director General of the Department of Commercial Relations(the predecessor of the Department of Export Promotion), Ministry of Commerce and the leader of the Japanese Implementation Survey Team. The recommendation was accepted in principle by both governments and as a result, the technical cooperation started.

3. SUMMARY OF THE PROJECT

The summarized record of implementation of the technical cooperation program is described below.

Chronological Review of the Project:

<u>Year</u>	<u>Month</u>	<u>Item</u>
1982	Jan.	-Dispatch of the 1st Japanese Preliminary Survey Team
	Feb.	-Dispatch of the Japanese Basic Design Study Team
	June	-Signing of the Exchange of Notes
	Sep.	-Dispatch of the 2nd Japanese Preliminary Survey Team
1983	Aug.	-Dispatch of the Japanese Implementation Survey Team
	Sep.	-Signing of the Record of Discussions and the Tentative Schedule of Implementation
	Dec.	-Completion of the Trade Training Center building
1984	Jan.	-Start of working of Thai Staff in the TTC building -Dispatch of one long-term expert as Coordinator and two short-term experts on Standardization & QC (Agricultural Products)
	Mar.	-Opening ceremony of the Trade Training Center
	Apr.	-Acceptance of one trainee (Trade Training) in Japan -Dispatch of three long-term experts as Team Leader and on Trade Training (Marketing) and Standardization & QC (Agricultural Products) and two short-term experts on Standardization & QC (Industrial Products)
	June	-Acceptance of one trainee (Industrial Products) in Japan
	July	-Acceptance of one trainee (Exhibition) in Japan

- 1984 Aug. -Dispatch of one short-term expert on Exhibition
 -Dispatch of the Japanese Consultation Team
- Oct. -Acceptance of one trainee(Agricultural Products) in Japan
 -Dispatch of one long-term expert on Standardization & QC(Agricultural Products)
- Dec. -Dispatch of one long-term expert on Trade Training(International Finance)
- 1985 Jan. -Dispatch of one short-term expert on Standardization & QC(Aflatoxin Analysis)
- Feb. -Acceptance of three trainees(Trade Training) in Japan
- Apr. -Dispatch of two short-term experts on Standardization & QC(Industrial Products)
- June -Dispatch of one short-term expert on Trade Training(Business Japanese)
- Aug. -Dispatch of one short-term expert on Exhibition
- Oct. -Acceptance of one trainee(Japanese Language) in Japan
- Nov. -Acceptance of two trainees(Exhibition and Industrial Products) in Japan
- Dec. -Acceptance of one trainee(Agricultural Products) in Japan
- 1986 Jan. -Dispatch of one short-term expert on Standardization & QC(Aflatoxin Analysis)
- Apr. -Dispatch of one long-term expert on Standardization & QC(Agricultural Products)
- Aug. -Dispatch of two short-term experts on Standardization & QC(Industrial Products)
- Oct. -Dispatch of the Japanese Consultation Team
- Nov. -Acceptance of two trainees(Agricultural Products) in Japan
- 1987 Jan. -Acceptance of one trainee(Industrial Products) in Japan

- 1987 Mar. -Acceptance of Director of the Trade Training Division in Japan
 -Acceptance of one trainee(Maintenance of Equipment and Audio-Visual Material Development) in Japan
- Apr. -Dispatch of one short-term expert on Standardization & QC(Fishmeal Inspection)
- May -Dispatch of the Japanese Evaluation Team
- (scheduled) -Dispatch of short-term experts on the following:
 Installment of Textile Inspection Machine
 Audio-Visual Training
 Business Japanese Language
 Standardization & QC(Industrial Products)
 Trade Training
 Installment of Audio-Visual Equipment
- Acceptance of Thai counterpart trainees in Japan on the following:
 Audio-Visual Material Development(one)
 Standardization & QC(Agricultural Products)(two)

II. METHODOLOGY OF EVALUATION

1. In order to evaluate the past implementation and achievement both quantitatively and qualitatively, the following items were adopted as reference.

- (1) The Record of Discussions
- (2) The official requests made by the Government of Thailand with respect to expert services, counterpart training in Japan and provision of equipment by means of Colombo Plan Forms A-1, A-2/3 and A-4 respectively
- (3) Minutes of Meetings and the Annual Work Plans agreed or accepted in the course of implementation of the Project
- (4) The Joint Pre-Evaluation Report signed on October 27, 1986

2. For the purpose of evaluation the Team also discussed various aspects of the Project and observed the buildings, machinery and equipment available for the Project.

III. RESULTS OF EVALUATION

1. BUILDING AND FACILITIES

Upon the signing of the Exchange of Notes on June 24, 1982, the construction of the Thai Trade Training Center was started under the Japan's grant aid. The Center was completed one month ahead of schedule and handed over from the Government of Japan to the Government of the Kingdom of Thailand in December, 1983.

(Comment)

In the course of technical cooperation by the Japanese experts, there was no obstacle due to building and facilities problems.

2. STAFFING

The counterpart personnel to the Project from its start is listed in ANNEX 1.

(Comment)

- 1) The Japanese side appreciated the efforts of TTD officials in keeping necessary staff members for the Project.
- 2) In the field of Trade Training, the assignment of counterpart personnel with qualification of trade business and trade management was necessary for the attainment of the effective technology transfer.
- 3) The assignment of the full time counterpart personnel in the field of Standardization and QC, was necessary for the attainment of the effective technology transfer.

3. MANAGEMENT AND ADMINISTRATION

All administrative and managerial services are being performed by the staff of the Trade Training Division and other divisions concerned in the

Department of Export Promotion (DEP), Ministry of Commerce.

The Joint Committee which consists of delegates from the TTD, DEP, OCS (Office of Commodity Standards, Department of Foreign Trade) and the DTEC (Department of Technical and Economic Cooperation) on the Thai side and the Japanese representatives from the Project, the JICA Thailand Office and the Embassy of Japan as observers were held at least once a year for smooth implementation of the Project.

The organization charts of the Ministry of Commerce and the TTD are shown in ANNEX 2.

(Comment)

- 1) Thanks to the concerted efforts of the Thai parties concerned, there were no serious problems in management and administration during the cooperation period.
- 2) The Joint Committee meetings were useful for considering the Project activities and guiding the course the Project should take.

4. EQUIPMENT

From the beginning of the Project in September, 1983 to date, machinery and equipment worth about ¥ 41.3 million were provided by the Japanese Government as listed in ANNEX 3.

The said machinery and equipment were installed and put into operation under the guidance of JICA experts in cooperation with Thai counterparts.

(Comment)

- 1) The additional equipment was provided to the Project by technical cooperation to supplement the machinery and equipment provided in the grant aid program.
- 2) The Project trained a Thai counterpart in maintaining equipment and JICA will provide spare parts of the equipment before the completion of the Project.

5. JAPANESE EXPERTS

JICA dispatched seven(7) long-term experts and the total number of fourteen(14) short-term experts and will dispatch eight(8) short-term experts as shown in ANNEX 4. In addition six(6) JICA teams visited Thailand for survey and consultation in connection with the Project as shown in ANNEX 5.

Accomplishment made by the Japanese experts are summarized in ANNEX 6 by field.

(Comment)

- 1) JICA dispatched experts in all fields as committed in the Record of Discussions though there was some delay in dispatch due to difficulty in recruiting experts.
- 2) The Japanese side appreciated the convenience granted to the experts by the Thai side.

6. COUNTERPART TRAINING IN JAPAN

The total number of sixteen(16) counterpart trainees from the TTD, DEP, and the OCS were sent to Japan and three(3) more will be accepted for the technical training. They are shown in ANNEX 4.

(Comment)

- 1) JICA accepted Thai counterpart trainees in all fields as committed in the Record of Discussions.
- 2) The training in Japan upgraded the competence of the Thai counterparts and was thus successful in cooperation with such organizations as the International Trade and Industry Inspection Institute, the Food Agency, the Japan External Trade Organization, the Institute for International Studies and Training and others with coordination of JICA.

7. THAI BUDGET

The Thai authorities allotted the budget shown in ANNEX 7 for the operation of the TTD and the smooth

performance of the Project.

(Comment)

The appropriation of the TTD budget was effective for the implementation of the Project.

8. WORK PLAN AND ACCOMPLISHMENT

The project accomplishment based on the Tentative Schedule of Implementation is shown in ANNEX 8 with the scheduled plans indicated by dotted lines and the actual implementation by solid lines respectively.

(Comment)

1) The work plan was framed in the Technical Cooperation Program of the Project and further discussed and specified in the Joint Committee meetings.

2) Each field was evaluated as follows :

A) Trade Training

1. Planning of Training Program

A basic knowledge of Planning of Training Program and its practical application method to concrete training needs have effectively been transferred in the following ways. -

1. Routine consultation with the Director of TTD and/or different counterparts.
2. Participation in planning and organization of Japanese-market related training programs.
3. Designing skill development training courses and the following thorough discussion with independent experts and their counterparts.

2. Marketing

TTD has presented exporters and export-oriented manufacturers with seminars which would contribute to the expansion of Thai export to the world market. Topics of seminars it held are to be categorized in the following three groups. : basic and

procedural ones, instructive and commentary ones, ones of product-adaptation-oriented information and techniques.

In the first half of cooperation period the experts mostly had cooperated with their counterparts to work out the effective seminars on the topic of groups 1 & 2. In the last half period, the experts had placed stress on cooperating to hold practical and specialized technical seminars, or of group 3. TTD comes to the stage of self-reliance in the area of marketing.

3. International Finance

A fundamental and practical knowledge of the financial aspect of international trade has thoroughly been learnt by the counterparts. The experts also suggested in their advisory notes that TTD should invite Thai exporters and hold seminars on the financial aspect of international trade to maximize their profit.

It is worthwhile to mention that TTD comes to recognize importance of how to effectively utilize the present domestic financial and taxational measures of export promotion. They are in the stage of self-reliance in the area of International Finance.

4. Business Communication

The following activities were conducted by the expert during his seven-months stay with TTD :

180 sessions of Practical Japanese for Beginners Course were practiced at TTD for seventeen officials of Ministry of Commerce. Surveys of Thai business circle's need of business Japanese and of institutions which provide or plan to open a business Japanese course.

5. Exhibition

Two experts in the field of Exhibition and Trade Fairs had worked with their

counterparts. Up-to-date information and know-how of how to administer exhibition and trade fairs had thoroughly been transferred to their counterparts, which is proved by a success in the 3rd ASEAN Trade Fair and full utilization of the exhibition hall.

B) Standardization & QC

1. Agricultural Products

The training in this area covers six commodities designated in the Record of Discussions and one additional item, or fishmeal.

Two counterpart-trainees respectively of maize, sorghum, tapioca and mung beans, one counterpart-trainee each of such commodities as kenaf & jute, kapok and fishmeal have already finished their internship training. TTD retains now eleven qualified prospective trainers. Sixty two OCS inspection officials and scientists have completed skill development training of Step I & II Courses, and six selected ones passed to the advanced stage have achieved Step III courses.

2. Industrial Products : Textile (silk products)

The training for Thai silk fabrics and products have provided three counterpart trainees with three training courses of different levels during the cooperation period of three years : Step I (Basic), Step II (application & review), and Step III courses. In the first and third years internship trainings for three counterpart-trainees have been organized. These internship trainings in the form of workshop conduct effectively contributed to counterparts' acquisition of knowledge and skills as qualified trainer.

3. Aflatoxin Analysis

Technical cooperation in this area provided two counterpart trainees, five OCS trainees and five participants of different

departments of the Ministry of Agriculture & Agricultural Cooperatives with skill development trainings of different level in Aflatoxin analysis and inspection. The trainings cover most of presently and widely adopted inspection methods of Aflatoxin such as AOAC method, Sep-pak method, and expedient Minicolumn method. The courses also provided them with the related knowledge and techniques : how to measure standard concentration of Aflatoxin and how to use a thin layer chromatography for Aflatoxin analysis, etc. The expert considers that OCS should develop an adequate sampling method proved by repeated experiments and should make efforts to urgently heap up correct data on Aflatoxin G1 & G2 to meet possible requirements of some of Thai trade partners.

IV. CONCLUSIONS

As a result of the joint evaluation work and discussions, both sides reached the following conclusions :

1. In general most activities of the Project on the Record of Discussions are coming to the stage of their targets.
2. The exhibition hall under this project has fully been utilized in recent years and has adequately operated on self-reliance basis by the Thai side.
3. In the area of AV teaching material development TTD will be able to attain its good self-reliant operational capability by the end of the project's cooperation term.
4. In the field of standardization and Quality Control of both agricultural and industrial products, all targets set in the Record of Discussions are almost perfectly achieved by OCS Counterpart Trainees. TTD is now equipped with maintenance capability of its Q.C. laboratory. TTD is in the process of planning and organizing, in cooperation with other related government organizations, the overall training programme of TTD's standardization and Q.C. trainings. In this connection, he will play vital roles in coordinating TTD Q.C. laboratory utilization requests of other organizations.
5. In the field of Trade Training targets set in the Record of Discussions are now mostly attained. As a follow up cooperation Thai side request JICA to dispatch the short-term experts on the specific items.
6. In the area of Business Japanese, TTD still need JICA's cooperation to dispatch a qualified instructor to retain a Business Japanese Course.

7. In accordance with the above observations, it is deemed that some technical cooperation subjects in the field of Trade Training should be followed-up for about twelve(12) months in order to attain its purpose.

LIST OF COUNTERPARTS FOR TTC PROJECT

1. Project Coordinator (Coordinator: 84/1--87/9)

General matter:

Mr.Kwanchai Pulavavana (84/1--85/6)
 Ms.Chuanpis Chaigvang (85/7--86/3)
 Mr.Phatai Sooksommai (84/6--86/10)
 Mr.Somdet Susomboon (86/10--87/3)
 Ms.Sriwattana Numbhakdi (87/4--)
 Mr.Sanit Phodhida (87/4--)

Standardization & QC:

Ms.Rommanee Chun-Obhas (84/1--86/3)
 Ms.Duangmal Hoontrakul (86/4--87/4)
 Mr.Sirachai Sroithong (87/4--)

2. Trade Training

Mr.Jayathat Suratanavongkur (87/4--)

Planning of Training Program (Expert(Team Leader): 84/4--87/9)

Mr.Vorapote Wongprasertphol (84/12--86/3)

Trade Practice(Markeing) (Expert: 84/4--86/4)

Mr.Chavalit Rojjanaprapayon (84/12--85/6)

Trade Practice(International Finance) (Expert: 84/12--86/12)

Mr.Surasakdi Sukhopala (84/12--86/3)
 Ms.Ubolphan Klykoom (86/4--87/4)
 Ms.Vantanee Kuachati (86/4--)

Exhibition (Short-Term Experts)

Ms.Kanchana Prasong (84/8--84/11)

Ms.Vantanee Kuachati (85/8--85/11)

Business Japanese (Short-Term Expert)

Ms.Chollada Nimcharoen (85/6)
 Ms.Amornrat Tarnrevadee (85/7--86/1)

Audio-Visual Material Development

Ms.Amornrat Tarnrevadee (87/1--)
 Mr.Vichanart Phonpalaharn (87/1--)

3. Standardization & QC

Agricultural Products (Experts: 84/4--87/9)

Mr. Samrerng Lengpaibool (84/4--85/10)
 Mr. Chinaratana Sawatdipanee (84/4--86/3)
 Mr. Somsak Tanasupawat (86/4--)
 Mr. Pornpote Mathurapote (87/1--)

Ms. Jintana Nateesatitarn (maize)
 Ms. Nongnoot Singhaphandhu (-do.-)
 Ms. Suree Viriyakitpatana (sorghum)
 Ms. Wanna Kongcharoenchittikul (-do.-)
 Mr. Suchart Arunakul (tapioca)
 Ms. Khanittha Virattanapanu (-do.-)
 Mr. Suvit Rujirayanyong (mung beans)
 Ms. Patra Kupapithayanan (-do.-)
 Mr. Bundit Phurkhao (kenaf & jute)
 Mr. Weerachai Nopsuwanvong (kapok)
 Mr. Piyachart Supanagula (fish meal)

Aflatoxin Analysis (Short-Term Experts)

Ms. Songsri Nopsuwanvong (85/1--85/3)
 Ms. Yoswadee Massinsuk (-do.-)

Mr. Somsak Tanasupawat (86/1--86/4)
 Ms. Wandee Singhasut (86/1--86/3)
 Ms. Suphichonee Hotrabhavanond (-do.-)
 Ms. Pornpun Areechit (86/3--86/4)
 Mr. Sermsak Siravade (-do.-)

Industrial Products (Textile) (Short-Term Experts)

Mr. Amarin Kongpun (84/4--84/7, 85/4--85/7, 86/8--86/11)
 Mr. Pichet Intarapanich (-do.-)
 Ms. Porntip Sritalanonda (84/4--84/7, 86/8--86/11)

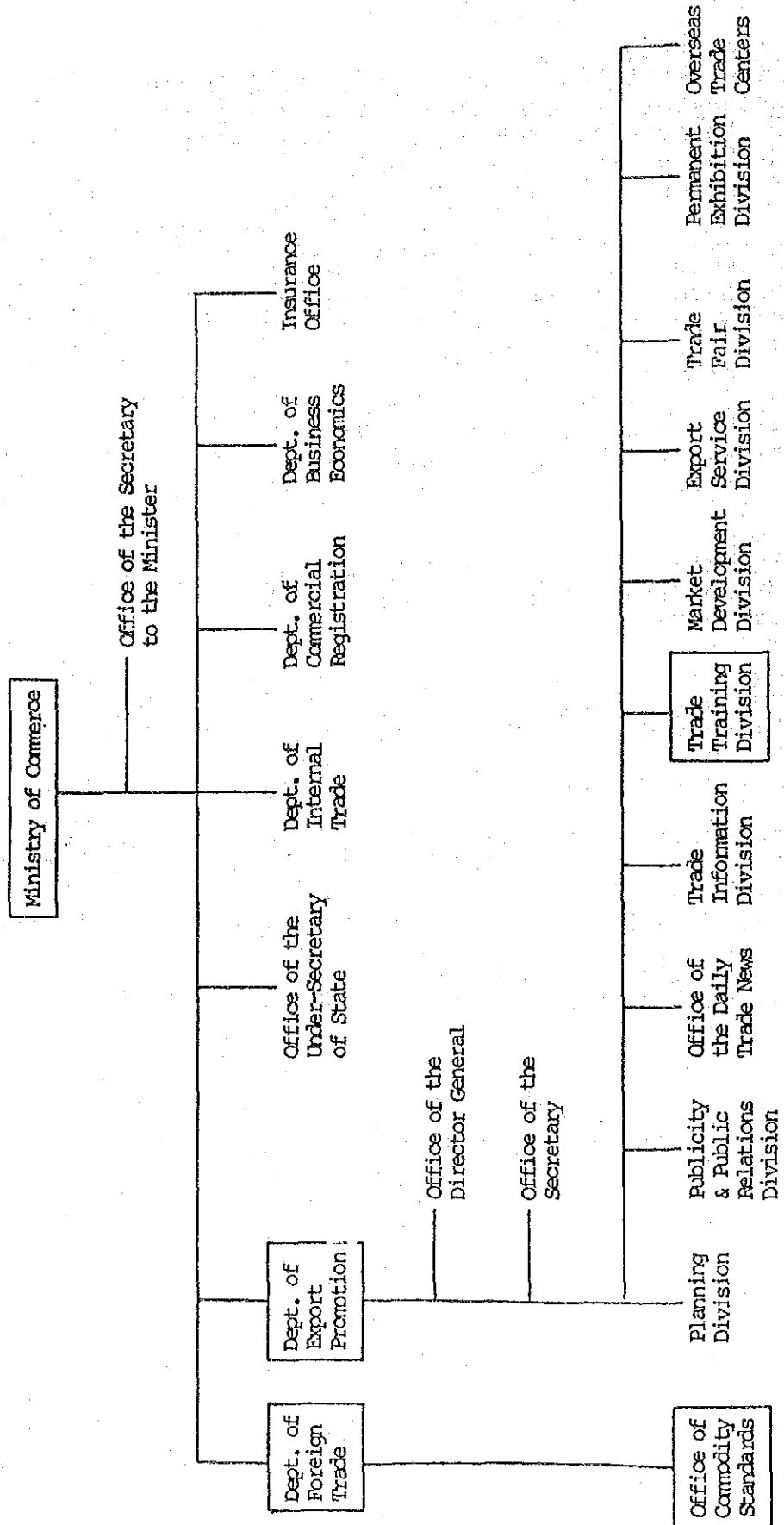
Maintenance of QC Equipment

Mr. Vichanart Phonpalaharn [TTD, DEP] (87/1--)

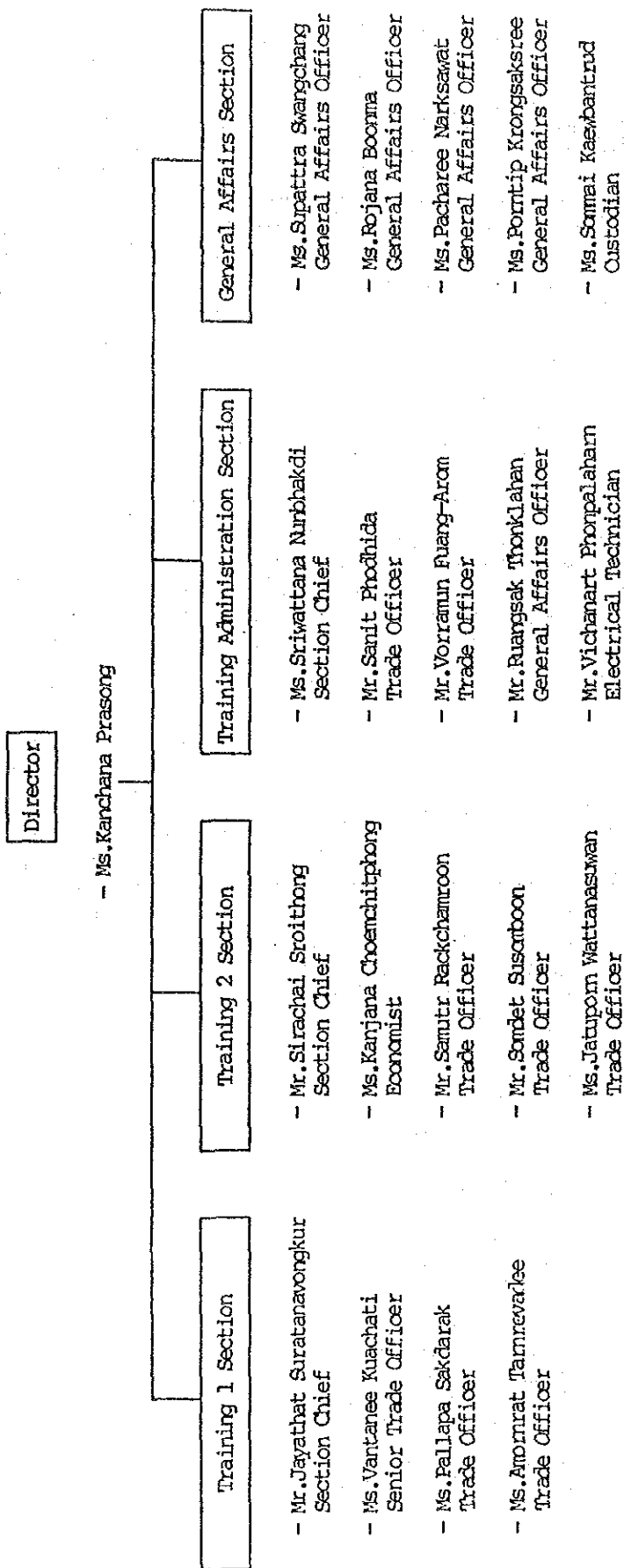
(Note): The counterparts of Standardization & QC are officials of Office of Commodity Standards (OCS), Department of Foreign Trade unless otherwise mentioned.

ORGANIZATION CHART OF MINISTRY OF COMMERCE

ANNEX 2-(1)



ORGANIZATION CHART OF TRADE TRAINING DIVISION



LIST OF EQUIPMENT

Equipment Provided By A4 Form

Fiscal Year	Equipment	Price (mil. Yen)
1984	Complete Digestion System Nitrogen Protein Analyzer Advanced Personal Computer	6.2 (C.I.F.)
1985	Audio Visual Equipment Camera Lenses Transparency Maker Lettering System etc. Germinator	2.2 (C.I.F.)
1986	Audio-Visual Equipment	13.9 (F.O.B)
1987	Spare Parts	10.0 (estimate) (F.O.B)

Equipment Accompanied By Experts

Fiscal Year	Equipment	Price (mil. Yen)
1984	Technical Books Sample Crusher Neocool Circulator Chemicals for Testing KETT Grain Moisture Meter etc.	5.3
1985	Technical Books Word Processor Corn Grain Separator Test Tubes Chuck with Rubber Sheet	4.7
1986	Drying Oven with Transformer Riffle Sampler Cross Beater Mill Grain Polisher etc.	4.7
1987 (to date)	Moisture Meter Sample Stocker Hot Plate Stirrer etc.	4.3

DISPATCH OF EXPERTS / ACCEPTANCE OF THAI COUNTERPARTS

ANNEX 4-(1)

CALENDAR YEAR	1984	1985	1986	1987
1. Dispatch of Japanese Experts Long-Term Experts Team Leader Coordinator Trade Training Marketing International Finance Standardization & QC Agricultural Products -do.-	1) <— <—2) 3) <— 4) < 5) <—		(+) (+) 7) <—	—> —> —> —> —> —> —> —> —> —>
Short-Term Experts Trade Training Garments Audio-Visual Training Business Japanese Standardization & QC Industrial Products Agricultural Products Exhibition	6) <— 9) <—> 10) <—> <—> 15) <—> 16) 20) <—> 17) <—>	8) <—> 11) <—> 12) <—> 18) <—> 21) <—>	13) <—> 14) <—> 19) <—>	<. > <. > <..... > <..... >
2. Training of Thai Counterpart Personnel in Japan Director of TTD Trade Training Audio-Visual Training Business Japanese Standardization & QC Industrial Products Agricultural Products Maintenance of Equipment Exhibition	2) <—> 7) <—> 10) <—> 15) <—>	3) <—> 4) <—> 5) <—> 6) <—> 8) <—> 11) <—> 16) <—>	9) <—> 12) <—> 13) <—>	1) <—> <... > 14) <—>

(Note) (+) : Extension of Assignment , <...> : Scheduled

LIST OF JAPANESE EXPERTS

ANNEX 4-(2)

Field	Name	No.	Duration
Team Leader	Mr. Kiyoshi Aonuma	1)	84/ 4/27—87/ 9/ 5
Coordinator	Mr. Masaharu Otake	2)	84/ 1/25—87/ 9/ 5
Trade Training			
Marketing	Mr. Masao Koizumi	3)	84/ 4/27—86/ 4/26
International Finance	Mr. Katsumi Yaguchi	4)	84/12/15—86/12/14
Standardization & QC			
Agricultural Products	Mr. Seiji Kaga	5)	84/10/22—87/ 9/ 5
-do.-	Mr. Kazuyuki Ishii	15)	84/ 1/25—84/ 2/ 8
-do.-	Mr. Yoshitsugu Ueno	6)	84/ 4/27—86/ 4/26
		16)	84/ 1/25—84/ 2/ 8
		7)	86/ 4/14—87/ 9/ 5
Trade Training			
Business Japanese	Mr. Kiyoshi Nakashima	8)	85/ 6/18—86/ 1/16
Standardization & QC			
Industrial Products	Mr. Tsunehide Miki	9)	84/ 4/27—84/ 7/26
-do.-	Mr. Kazumi Sagisaka	13)	86/ 8/ 1—86/11/15
-do.-	Mr. Minoru Kato	10)	84/ 4/27—84/ 7/26
-do.-	Mr. Ikuo Tsukagoshi	11)	85/ 4/21—85/ 7/19
		12)	85/ 4/21—85/ 7/19
		14)	86/ 8/ 1—86/11/15
Agricultural Products	Mr. Isao Matsubara	17)	85/ 1/ 5—85/ 3/16
		18)	86/ 1/31—86/ 4/10
	Mr. Mitsuhsa Barada	19)	87/ 4/28—87/ 7/27
Exhibition	Mr. Hiroaki Azuma	20)	84/ 8/18—84/11/16
-do.-	Mr. Iwao Koyama	21)	85/ 8/12—85/11/ 9
(scheduled)			
Installment of Equipment			
Textile Inspection Machine			
Audio-Visual Equipment			
Trade Training			
Audio-Visual Training			
Business Japanese			
Standardization & QC			
(Industrial Products)			

(Note) No. is the number given in the Table of 'DISPATCH OF EXPERTS / ACCEPTANCE OF THAI COUNTERPARTS'.

Field	Name	No.	Duration
Director of TTD	Ms.Kanchana Prasong	1)	87/ 3/22--87/ 3/31
Trade Training	Mr.Phatai Sooksonmai	2)	84/ 4/ 1--84/ 5/31
-do.-	Mr.Chavalit Rojjanaprayon	3)	85/ 2/14--85/ 5/13
-do.-	Mr.Surasakdi Sukhacala	4)	85/ 2/14--85/ 5/13
-do.-	Mr.Worapote Wongprasertphol	5)	85/ 2/14--85/ 5/13
Business Japanese	Ms.Anomrat Tamrevadee	6)	85/10/24--86/ 4/29
Standardization & QC			
Industrial Products	Ms.Suwimol Tikinanond	7)	84/ 6/14--84/ 8/21
-do.-	Mr.Pichet Intarapanich	8)	85/11/12--85/12/17
-do.-	Mr.Amarin Kongpin	9)	87/ 1/12--87/ 3/31
Agricultural Products	Mr.Trairat Hongsuwong	10)	84/10/ 8--84/12/14
-do.-	Mr.Chinaratana Sawatipanee	11)	85/12/ 4--86/ 2/14
-do.-	Mr.Suvit Rujirayanyong	12)	86/11/20--87/ 2/26
-do.-	Mr.Sichart Anunakul	13)	-do.-
Maintenance of Equipment	Mr.Vichanart Phompalaharn	14)	87/ 3/30--87/ 5/31
Exhibition	Mr.Sawek Sakdarak	15)	84/ 7/26--84/ 9/ 5
-do.-	Ms.Vantanee Kuachati	16)	85/11/12--85/12/17
(scheduled)			
Audio-Visual Training	Ms.Anomrat Tamrevadee		
Standardization & QC			
Agricultural Products	Mr.Pornpote Mathurapote		
-do.-	Mr.Somsak Tanasupawat		

(Note) No. is the number given in the Table of 'DISPATCH OF EXPERTS / ACCEPTANCE OF THAI COUNTERPARTS'.

CALENDAR YEAR	1982	1983	1984	1985	1986	1987
1st. Preliminary Survey Team L. Mr. Keiichi Tachibana Mr. Saiji Morimoto Mr. Kazumi Fujita Mr. Kazuyoshi Seto Mr. Kiyoshi Aonuma Mr. Naoki Kai Mr. Osamu Matsumura	<-> 1/8-1/14 <-> 9/20-10/3					
2nd. Preliminary Survey Team L. Mr. Kiyoshi Aonuma Mr. Kazumi Fujita Mr. Naokiyo Nishiyama Mr. Sadayoshi Anai Mr. Aiji Suzuki Mr. Ikuo Tsukagoshi Mr. Kouji Satō	<-> 8/28-9/7		<-> 8/19-8/25			
Implementation Survey Team L. Mr. Toshiyazu Hiura Mr. Kiyoshi Aonuma Mr. Kazumi Fujita Mr. Kenji Izumida Mr. Kiyoshi Takehashi Mr. Takeaki Sono						
Consultation Survey Team L. Mr. Shigemitsu Suzuki Mr. Norio Okesha Mr. Hiroshi Nojima Mr. Iwao Horizono Mr. Toshio Shomura Mr. Yoshitatsu Umoto Mr. Takeaki Sono					<-> 10/21-10/23	
Consultation Survey Team L. Mr. Keiji Iimura Mr. Yuji Tokumasa Mr. Toshio Shomura Mr. Norio Maruyama Mr. Mitsuhiro Sugano						
Evaluation Team L. Mr. Keiji Iimura Mr. Satoshi Tobita Mr. Toshio Shomura Mr. Norio Maruyama Mr. Mitsuhiro Sugano						<-> 5/20-5/29

TECHNICAL COOPERATION OF THE TIC PROJECT (1)

ANNEX 6-(1)

FIELD	1984			1985			1986			1987		
	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	9
<p>TRADE TRAINING</p> <p>Observation tour of TTD Director Counterpart Training in Japan</p> <p>[Planning of Training Program] Expert (Team leader) Counterpart Training in Japan</p> <p>[Marketing] Expert Seminar Consultation Report</p> <p>Counterpart Training in Japan</p>		↔	↔	↔								
<p>[International Finance] Expert Seminar Report</p> <p>Counterpart Training in Japan</p>		↔	↔	↔								
<p>[Business Communication] Expert Training Course Survey Visit Development of Training Program Counterpart Training in Japan</p> <p>[EXHIBITION] Expert Seminar Report</p> <p>Trade Fair Counterpart Training in Japan</p>		↔	↔	↔								

TECHNICAL COOPERATION OF THE TIC PROJECT (2)

ANNEX 6-(2)

FIELD	1984			1985			1986			1987		
	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	9
STANDARDIZATION & QC [Agricultural Products] Expert												
Step Training (731 hrs.) 1. kenaf & jute 2. kapok 3. tapioca 4. maize 5. sorghum 6. mung beans 7. fish meal Workshop (181.5 hrs.) 1. kenaf & jute 2. kapok 3. tapioca 4. maize 5. sorghum 6. mung beans 7. fish meal		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
Survey Visit & Sampling Counterpart Training in Japan												
[Aflatoxin] Expert Training Workshop Survey Visit & Sampling Seminar [Maintenance of QC Equipment] Training at TIC Counterpart Training in Japan												
[Industrial Products (Textile)] Expert												
Step Training Workshop Survey Visit Development of Training Program Counterpart Training in Japan												

ACTIVITIES OF TECHNICAL COOPERATION OF THE TTC PROJECT

PROJECT IN GENERAL

Report:

- A Progress Report of the Technical Cooperation Activities of the Trade Training Center Project 1984 (1984)
- A Progress Report of the Technical Cooperation Activities of the Trade Training Center Project 1985 (1985)
- A Progress Report of the Technical Cooperation Activities of the Trade Training Center Project 1986 (1986)

TRADE TRAINING

[PLANNING OF TRAINING PROGRAM]

[MARKETING]

Seminar:

- QC Activities: Characteristics of Japanese Management as a Background of Successful QCC Activities in Japan (Mar.22,1985)
- Japan Lounge: Knocking the Japanese Door
 - 1.The Future Prospective of the Thai-Japan Trade Relations: What are Promissing Business Areas? (Aug.6,1985)
 - 2.Yakitori Made in Thailand (Dec.16,1985)
- Export to Japan (Oct.18,1985, joint seminar with Thai Farmers Bank)
- Can-Making and Canning (Aug.19---20,1986)

Consultation:

- Special Market Advisory Service Program on Export to Japan (July--Aug.,1985)

Report and Reference Material:

- Some Comments on "QC" Activities in Japanese Enterprises (seminar manuscript by M.Koizumi, 1984)
- A Comment on the Training Program(General) (by M.Koizumi 1984)
- Report on Consulting Service Project (by M.Koizumi & K.Yoguchi 1985)
- Some Comments upon the Proposed ASEAN Seminar on Japanese Law (by M.Koizumi & K.Yoguchi 1985)
- Export to Japan: Some Ideas concerning Export Promotion as well as Export Training Needs in Thailand (seminar manuscript by M.Koizumi, 1985)
- Export to Japan (seminar manuscript by K.Yoguchi, 1985)
- On the Plan to Make a Pragmatic Guidebook to Japanese Market (by M.Koizumi, 1985)

- Reference Materials for the Japan Lounge Program (by K.Aonuma, 1985)
- Some Personal Ideas concerning Export Promotion as well as Export Training Needs in Thailand (by M.Koizumi, 1986)
- Technical Information Book for the Seminar on Can-Making and Canning (by K.Aonuma, 1986)

Advisory Note:

- White Paper: How to Achieve Export Target to Japan in 1986 (by K.Yoguchi, 1986)

[INTERNATIONAL FINANCE]

Seminar:

- Export Finance (July 30,1986)

Report and Reference Material:

- Review of New Chance of Thai Export to Japan at the Time of Higher Yen (by M.Koizumi, 1986)
- Export Finance (seminar manuscript by K.Yoguchi, 1986)
- A Final Report on the Technical Cooperation Implemented during 2 Years and Proposals for Further Development (by K.Yoguchi, 1986)

Advisory Note:

1. How to Finance in order to Promote Thai Export (by K.Yoguchi, 1986)
2. Small and Medium-sized Company's Credit System in Promoting the Export Industry (by K.Yoguchi, 1986)
3. Further Advice related to 1 (by K.Yoguchi, 1986)
4. Further Advice related to 3 (by K.Yoguchi, 1986)

[BUSINESS COMMUNICATION]

Training:

- Practical Japanese for Beginners Course (180 hrs. Aug.20,1985--Jan.10,1986)

Curriculum:

- The Outline of Intermediate-Level Business Japanese Course at Trade Training Center (1986)

Survey:

- Summary of 11 Japanese Language Teaching Institutions in Bangkok (by K.Nakashima, 1985)

Report and Reference Material:

- Progress Report of the Preparation for Setting-up of a Commercial Japanese Language Course (by K.Aonuma, 1985)
- Practical Japanese for Beginners (by K.Nakashima, 1985)
- Interim Report on Practical Japanese for Beginners Course (by K.Nakashima, 1985)

- Interim Report on Feasibility Studies for Setting-up of Intermediate Business Japanese Course at TTC (by K.Nakashima, 1985)
- Academic Seminar on the Development of Business Japanese Course in Thailand (by K.Nakashima, 1985)
- Progress Report on the Practical Japanese for Beginners Course and on Feasibility Studies for Setting-up of Intermediate Business Japanese Course (by K.Nakashima, 1985)
- Final Report on Practical Japanese for Beginners Course (by K.Nakashima, 1986)

[EXHIBITION]

Seminar:

- Trade Fairs for Export Promotion (Oct.17,1984)
- Personal Views on Exhibition (Nov.15,1985)

Report and Reference Material:

- Advisor's Report on ASEAN Trade Fair (by H.Azuma, 1984)
- How to Organize the Participation in International Trade Fairs (by H.Azuma, 1984)
- Trade Fairs for Export Promotion (seminar manuscript by H.Azuma, 1984)
- Evaluation of Exhibitions and Trade Fairs (by I.Koyama, 1985)
- Exhibitions for Export Promotion (by I.Koyama, 1985)
- Reference Papers for Exhibitor's Guide (by I.Koyama, 1985)
- Contents of Business Handbook for Overseas Trade Fair Participation (by I.Koyama, 1985)
- Concerning the International Trade Fair to be held in Thailand (by I.Koyama, 1985)
- Some Aspect of JETRO Exhibition (seminar manuscript by I.Koyama, 1985)

STANDARDIZATION & QC[AGRICULTURAL PRODUCTS]

Step Training (731 hrs.):

- 1.kenaf & jute (32.5 hrs.)
- 2.kapok (19.5 hrs.)
- 3.tapioca (113.5 hrs.)
- 4.maize (156 hrs.)
- 5.sorghum (136.5 hrs.)
- 6.mung beans (240.5 hrs.)
- 7.fish meal (32.5 hrs.)

Workshop (181.5 hrs.):

- 1.kenaf & jute (22 hrs.)
- 2.kapok (16.5 hrs.)
- 3.tapioca (22 hrs.)
- 4.maize (38.5 hrs.)
- 5.sorghum (38.5 hrs.)
- 6.mung beans (44 hrs.)
- 7.fish meal

Training of Equipment Maintenance

Survey Visit and Sampling:

- 5 places in 1984
- 7 places in 1985
- 23 places in 1986
- 7 places in 1987

Report:

- The Skill-Development Training for Inspectors of Agricultural Products (by K.Ishii, 1984)
- An Interim Report on Skill-Development Training of Inspection and Testing of Agricultural Products (by K.Ishii, 1984)
- A Report of the Workshop on Inspection Technics of Mung Beans, Maize and Sorghum (by K.Ishii & S.Kaga, 1985)
- Evaluation: Workshop on Mung Beans Inspection (by K.Ishii & S.Kaga, 1985)
- Evaluation: Workshop on Maize and Sorghum Inspection (by K.Ishii & S.Kaga, 1985)
- The Necessity of Expert-Advisors' Conducting an Adequate Survey of Inspection of Agricultural Products Practiced in Thailand (by S.Kaga, 1985)

Textbook:

- The Third Inspection Training on Tapioca (1985)
- The First Inspection Training on Fish Meal (1986)
- The Workshop on Kenaf and Jute Inspection (1986)
- The Workshop on Maize Inspection (1986)
- The Workshop on Sorghum Inspection (1986)
- The First Inspection Training on Kapok (1986)
- The Workshop on Mung Beans Inspection (1986)
- The Workshop on Kapok Inspection (1986)
- The Workshop on Tapioca Inspection (1987)
- Inspection Training for Mung Beans (1987)

Slide:

- Slides for Training Use

[AFLATOXIN ANALYSIS]

Training:

- step 1 (195 hrs.)
- step 2 (188.5 hrs.)

Workshop:

- workshop (1 day)

Survey Visit:

- 1 place in 1985
- 2 places in 1986

Seminar:

- Seminar on Aflatoxin (Mar.8,1985)

Report and Reference Material:

- Some Remarks on Aflatoxin Problems (by I.Matsubara, 1985)

[INDUSTRIAL PRODUCTS: TEXTILE]

Step Training:

- step 1 (214.5 hrs. including review training)
- step 2 (260 hrs. including review training)
- step 3 (52 hrs.)

Workshop:

- workshop 1 (2 days)
- workshop 2 (4 days)

Survey Visit:

- 5 places in 1984
- 7 places in 1985
- 4 places in 1986

Curriculum:

- Phase I Training Course
- Phase II Training Course

Report:

- Report on Technical Cooperation for Standard and Quality Control on Industrial Product (by T.Miki & K.Sagisaka, 1984)
- The 1985 Training Program for Textile Inspectors and Lab. Testers (by M.Kato & I.Tsukagoshi, 1985)
- Report on the 1985 Technical Cooperation in the Field of Standards and Quality Control (Industrial Products: Textile) (by M.Kato & I.Tsukagoshi, 1985)
- The 1986 Technical Guidance Program on Industrial Product Inspection and Testing (by T.Miki & I.Tsukagoshi, 1986)
- Final Report on the Technical Cooperation in the Field of Standards and Quality Control (Industrial Products:

Textile) (by T.Miki & I.Tsukagoshi, 1986)

Textbook:

- The Workshop on Thai Silk (1986)
- Phase I Training Course Textbook on Thai Silk (1986)
- Phase II Training Course Textbook on Thai Silk (1986)

THAI BUDGET OF TRADE TRAINING CENTER

ANNEX 7

Item	Thai Fiscal Year				
	1984	1985	1986	1987	(in baht)
Personnel Expenses (Salary, etc.)	2,039,300	2,481,000	2,609,600	3,195,500	
Utility Charges (Electricity, Water, etc.)	900,000	900,000	900,000	900,000	
Repair & Maintenance	110,000	120,000	155,000	122,000	
Training Material	203,700	230,000	375,000	390,000	
Training Administration	289,000	289,000	699,600	699,600	
Total	3,542,000	4,020,000	4,739,200	5,307,100	

NOTE 1. Thai Fiscal Year is from October 1st of the previous year to September 30th of the said year.
(1984 TFY: October 1, 1983--September 30, 1984)

2. Rate: 1984 -- 1 Baht=10 Yen
 1985 -- 1 Baht= 9 Yen
 1986 -- 1 Baht=8--6 Yen
 1987 -- 1 Baht=6 Yen

TENTATIVE SCHEDULE OF IMPLEMENTATION / ACTUAL IMPLEMENTATION (4)

ANNEX 8-[1]

ITEMS	PREPARATION				IMPLEMENTATION		SELF RELIANCE
	1983	1984	1985	1986	1987	1987	
	JAPANESE FISCAL YEAR	1984	1985	1986	1987	1987	
Duration of Technical Cooperation	Sept. 5.....>>>>>>>
A. Thai Side>>>>>>>
1. Staff Recruitment>>>>>>>
2. Organization Set-up>>>>>>>
B. Japanese Side>>>>>>>
1. Dispatch of Survey Team>>>>>>>
1) Implementation Survey>>>>>>>
2) Consultation>>>>>>>
3) Technical Guidance>>>>>>>
4) Evaluation>>>>>>>
2. Dispatch of Japanese Experts>>>>>>>
1) Long-Term Experts>>>>>>>
(1) Team Leader>>>>>>>
(2) Coordinator>>>>>>>
(3) Trade Training>>>>>>>
(4) Standardization & QC>>>>>>>
2) Short-Term Experts>>>>>>>
(1) Trade Training>>>>>>>
(2) Standardization & QC>>>>>>>
1. Industrial Products>>>>>>>
1. Agricultural Products>>>>>>>
(3) Exhibition>>>>>>>

(Note) <...> : Tentative Schedule of Implementation
 <====> : Actual Implementation
 (+) : Extension of Assignment

TENTATIVE SCHEDULE OF IMPLEMENTATION / ACTUAL IMPLEMENTATION (2)

ITEMS	PREPARATION					IMPLEMENTATION			SELF RELIANCE
	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991
	CALENDAR YEAR		JAPANESE FISCAL YEAR						
3. Training of Thai Counterpart Personnel in Japan 1) Director of TTD 2) Trade Training		↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔
Business Japanese 3) Standardization & QC (1) Industrial Products (2) Agricultural Products		(9) ↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔
3) Maintenance of Equipment 4) Exhibition		↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔
4. Provision of Equipment and Machinery		↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔

[Note] <...> : Tentative Schedule of Implementation
 <====> : Actual Implementation
 (+) : Extension of Assignment

THE MINUTES OF THE MEETING BETWEEN THE JAPANESE
EVALUATION TEAM AND THE AUTHORITIES CONCERNED
OF THE GOVERNMENT OF THE KINGDOM OF THAILAND ON
THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION PROJECT FOR
THE THAI TRADE TRAINING CENTER

The Japanese Evaluation Team (hereinafter referred to as "The Team"), organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") headed by Mr. Keiji Iimura visited the Kingdom of Thailand from May 20 to May 29, 1987, exchanged views and had a series of discussion with the Thai authorities concerned for the purpose of evaluating the achievements of Japanese technical cooperation project for the Trade Training Center (hereinafter referred to as "the Project").

As a result of the joint evaluation work and discussions, both sides reached the following conclusions:

1. In general most activities of the Project on the Record of Discussions are coming to the stage of their targets.
2. The exhibition hall under this project has fully been utilized in recent years and has adequately operated on self-reliance basis by the Thai side.
3. In the area of AV teaching material development TTD will be able to attain its good self-reliant operational capability by the end of the project's cooperation term.
4. In the field of Standardization and Quality Control of both agricultural and industrial products, all targets set in the Record of Discussions are almost perfectly achieved by OCS Counterpart Trainees. TTD is now equipped with maintenance capability of its Q.C. laboratory. TTD is in the process of planning and organizing, in cooperation with other related government organizations, the overall

360

✓

training programme of TTD's standardization and Q.C. trainings. In this connection, he will play vital roles in coordinating TTD Q.C. laboratory utilization requests of other organizations.

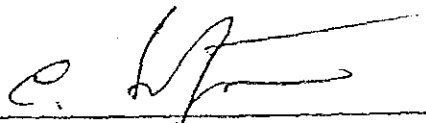
5. In the field of Trade Training targets set in the Record of Discussions are now mostly attained. As a follow up cooperation Thai side request JICA to dispatch the short-term experts on the specific items.
6. In the area of Business Japanese, TTD still need JICA's cooperation to dispatch a qualified instructor to retain a Business Japanese Course.

In view of the above, both sides agreed to recommend to their respective Governments that it is still necessary to follow up the cooperation in the field of the Trade Training for another twelve (12) months from September 5, 1987 to September 4, 1988 by implementing the cooperation mentioned in ANNEX 1.

Bangkok, May 28, 1987

飯村 吉司

Keiji Iimura
Leader
Japanese Evaluation Team,
Japan International
Cooperation Agency,
JAPAN



Chachaval Sukitjavanith
Deputy Director General
Department of Export
Promotion,
Ministry of Commerce,
THE KINGDOM OF THAILAND

ANNEX I

1. The Tentative Schedule of Implementation and the Technical Cooperation Program of the Project are shown in Annex A and B.
2. In formulating the above-mentioned schedule, it was mutually understood that both sides should exert their utmost effort so as to attain the target stated in the above mentioned schedule within the cooperation period.
3. Measures to be taken by both sides to the above Cooperation will be treated in the same manner prescribed in the articles of Attached Document in the Record of Discussions signed on September 5, 1983.

✓

as

TENTATIVE SCHEDULE OF IMPLEMENTATION

ANNEX A

ITEMS	1987		1988	
	CALENDER YEAR	MONTH	CALENDER YEAR	MONTH
1. Dispatch of Japanese Experts				
1) Short-term Experts				
(1) Trade Training				
i) Specific Items				
ii) Business Japanese				
2. Training of Thai Counterpart Personnel in Japan				
1) Trade Training				

TECHNICAL COOPERATION PLAN

ANNEX B

ACTIVITIES	1987		1988	
	CALENDER YEAR	MONTH	CALENDER YEAR	MONTH
Trade Training				
Specific Items				
Business Japanese				

*Development of Practical Knowledge and Techniques concerning Specific Items
 *Fresh Fruit & Vegetables (Packaging and Transportation)
 *Conduct of Japanese Business Language Course

